

2024 年度研修会実施録

公益社団法人 長崎県看護協会
研修センター

目 次

I. 2024 年度研修実施概要	1
------------------	---

II. 2024 年度受講者概要	3
------------------	---

III. 実施報告

研修分類 1. 専門職としての活動の基盤となる研修

・ 感染管理	5
・ 感染症の基礎知識と感染対策①	6
・ 感染症の基礎知識と感染対策②	6
・ 呼吸に強くなる!基礎から学ぶ呼吸①～フィジカルアセスメント～	7
・ 地域と病院をつなぐ外来看護～在宅療養支援における外来看護の課題・役割～	7
・ 研究計画書を作ってみよう～看護研究の基礎から学ぶ～	8
・ 職業感染防止の実際	9
・ 医療・看護における倫理～倫理的問題とその対処方法～	9
・ 看護の現場ですぐに役立つ看護記録～伝わる記録のコツと書き方～	10
・ 現場に役立つ!褥瘡ケア～最新知識に基づいたケアの実際～	10
・ 患者の急変予測と急変対応～患者の様子が“何かおかしい”に気づく～	11
・ 腎臓に強くなる!慢性腎臓病患者への看護と療養指導	11
・ 認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	12
・ 呼吸器に強くなる!基礎から学ぶ呼吸②～人工呼吸ケア～	12
・ がん患者の自分らしい生活を支えるために①～がん放射線療法～	13
・ 高齢者の転倒予防を支えるロコモ体操予防の実際	13
・ 高齢者の食べるを支える摂食嚥下リハビリテーションの実際	14
・ 消化器に強くなる!消化器領域の検査データの見方・活かし方	14
・ 急性期で起こりやすい対応が難しい場面での家族ケア	15
・ 地域包括ケア時代の看護職の役割～退院支援への取り組み～	15
・ 循環器に強くなる!慢性心不全患者の看護	16
・ 循環器に強くなる!循環器領域の検査データの見方・活かし方①[心電図編]	16
・ クレームを起こさないための基本の対応とコツ	17
・ がん患者の自分らしい生活を支えるために②～がん化学療法～	17
・ がん患者の自分らしい生活を支えるために③～がん性疼痛～	18
・ 予兆を察知!脳血管障害に必要なアセスメント	18
・ 感染症の最新動向新興ウイルスと感染予防対策	19
・ 終末期における意思決定支援	19

・実践に活かす!糖尿病の最新治療とセルフケア支援	20
・循環器に強くなる!循環器領域の検査データの見方・活かし方②[画像診断編]	20

研修分類 2. 看護・医療政策に関する研修

・地域包括ケアシステムを知って看護の現場に活かそう学ぼう!	21
-------------------------------	----

研修分類 3. 人材育成や教育支援を行う者を対象とした研修

・中堅ナースに役立つスキル	22
・スタッフ指導における「気になる」を解決!個性を活かす関わりと支援しやすい職場作り	23
・コーチングを活かした OJT の際の指導力、研修の設計力を高めよう	23
・はじめてのリーダー～看護職に求められるリーダーシップ～	24
・はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～【第 1 回】	25
・はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～【第 2 回】	25

研修分類 5. 資格認定教育

・認定看護管理者教育課程第 1 回ファーストレベル 第 2 回ファーストレベル	26
・認定看護管理者教育課程セカンドレベル	28

IV. その他

・2024 年度理解度・満足度	30
-----------------	----

I.2024 年度 研修実施概要

分類 1 専門職としての活動の基盤となる研修

研 修 名	開催期間	目 標
感染管理	6/20(木) ～8/8(金)	感染管理の基礎知識を理解し、感染管理を実践するためのリーダーとしての役割遂行能力を養う。
感染症の基礎知識と感染対策①	6/20(木)	感染症の基礎知識と感染対策を理解する。
感染症の基礎知識と感染対策②	7/17(水)	感染症の基礎知識と感染対策を理解する。
呼吸器に強くなる!基礎から学ぶ呼吸① ～フィジカルアセスメント～	7/19(金)	呼吸のフィジカルアセスメントを修得する。
地域と病院をつなぐ外来看護 ～在宅療養支援における外来看護の課題・役割～	7/20(土)	住み慣れた地域での生活を支えるための在宅療養支援と看護職者に求められる役割を理解し、外来に求められる看護の専門性を学ぶ。
研究計画書を作ってみよう ～看護研究の基礎から学ぶ～	7/25(木) ～8/21(水)	看護研究を理解し、研究遂行に必要な基礎的能力を修得する。臨床現場における自らの興味・関心をもとに選択した看護研究論文の精読を通して研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。
職業感染防止の実際	7/30(火)	医療現場でおきる職業感染を防止するための方策を理解する。
医療・看護における倫理 ～倫理的問題とその対処方法～	8/20(火)	医療・看護における倫理的問題を理解する。事例を通して倫理的問題に対処するための視点と方法を理解する。
看護の現場ですぐに役立つ看護記録 ～伝わる記録のコツと書き方～	8/22(木)	看護記録の重要性を知り、看護実践が見える看護記録の方法を理解する。
現場に役立つ!褥瘡ケア ～最新知識に基づいたケアの実際～	8/30(金)	褥瘡予防の重要性や褥瘡ケアの具体的な方法を理解する。
患者の急変予測と急変対応 ～患者の様子が“何かおかしい”に気づく～	9/5(木)	急変予測と急変対応に関する基礎的な知識を修得し、急変対応力を高めることができる。
腎臓に強くなる!慢性腎臓病患者への看護と療養指導	9/13(金)	慢性腎臓病の基礎的知識を深め、患者ケアや療養指導について理解する。
認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	9/19(木)	認知症高齢者を正しく捉えるためのアセスメントの視点を理解する。
呼吸器に強くなる!基礎から学ぶ呼吸② ～人工呼吸ケア～	9/20(金)	人工呼吸器を装着している患者ケアの基礎的な知識を修得する。
がん患者の自分らしい生活を支えるために① ～がん放射線療法～	9/21(土)	がん放射線療法を受ける患者を理解し、治療中の看護ができる。
高齢者の転倒予防を支えるロコモ体操予防の実際	9/28(土)	運動機能障害を正しく理解し、ロコモ予防のための基礎知識を修得する。
高齢者の食べるを支える摂食嚥下リハビリテーションの実際	10/4(金)	患者の QOL 向上に向けた摂食嚥下リハビリテーションの方法を理解する。
消化器に強くなる!消化器領域の検査データの見方・活かし方	10/5(土)	消化器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を習得する。
急性期で起こりやすい対応が難しい場面での家族ケア	10/10(木)	急性期の危機的状況に置かれた患者家族の心理状態と、家族の状況に合わせた具体的な対応を理解する。
地域包括ケア時代の看護職の役割 ～退院支援への取り組み～	10/11(金)	多職種・地域との連携を図り、円滑な退院調整、退院支援が行える必要な知識と役割を修得する。
循環器に強くなる!慢性心不全患者の看護	10/25(金)	慢性心不全の基礎的知識を習得し、療養支援の実際を知る。
循環器に強くなる! 循環器領域の検査データの見方・活かし方①[心電図編]	11/13(水)	循環器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を修得する。
クレームをおこさないための基本の対応とコツ	11/14(木)	医療現場で起きているトラブルに関する最近の動向を知り、クレームに向き合う姿勢と対処方法を理解する。
がん患者の自分らしい生活を支えるために② ～がん化学療法～	11/15(金)	がん化学療法を受ける患者を理解し、副作用対策とチーム医療における看護師の役割が理解できる。
がん患者の自分らしい生活を支えるために③ ～がん性疼痛	11/28(木)	がん性疼痛を理解し、がん患者の疼痛緩和のケア方法を学ぶ。
予兆を察知!脳血管障害に必要なアセスメント	11/29(金)	脳血管障害の基本知識を学び、看護に必要なアセスメントを理解する。
感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策	12/10(火)	感染に対する最新の動向と、感染予防対策を理解する。
終末期における意思決定支援	12/11(水)	終末期における患者、家族の意思決定を支える看護師の役割を理解する。
実践に活かす!糖尿病の最新知識とセルフケア支援	12/15(日)	糖尿病および治療に関する最新知識を修得し、生活習慣に合わせた患者ケアや療養指導を理解する。
循環器に強くなる! 循環器領域の検査データの見方・活かし方②[画像診断編]	2025 年 1/15(水)	循環器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を修得する。

分類 2 看護・医療政策に関する研修

研 修 名	開催期間	目 標
医療安全管理者養成 (日本看護協会主催インターネット配信オンデマンド活用)	オンデマンド受講期間: 7/1～12/14 集合研修: 12/19(木)	医療の質の向上と安全確保を目的とした、医療安全管理業務を遂行するための基本的な知識と実践能力を習得する。
認知症高齢者の看護実践に必要な知識(JNA 収録 DVD 研修)*「認知症患者のアセスメントや看護方法等に関する適切な研修」に対応 【第 1 回】	8/28(水)・29(木)	1.認知症高齢者における国の施策や医療の現状を理解する。 2.入院中の認知症高齢者を適切にケアするための基本的な知識を理解する。
認知症高齢者の看護実践に必要な知識(JNA 収録 DVD 研修)*「認知症患者のアセスメントや看護方法等に関する適切な研修」に対応 【第 2 回】	9/17(水)・18(木)	1.認知症高齢者における国の施策や医療の現状を理解する。 2.入院中の認知症高齢者を適切にケアするための基本的な知識を理解する。

地域包括ケアシステムを知って看護の現場に活かそう学ぼう!	9/12(木)	地域包括ケアシステムの構築・推進に対応するための看護職の役割を理解する。
災害支援ナース養成研修	オンデマンド受講期間： 9/6～10/11 集合研修： 10/16(水)・17(木)	1.災害・感染症等に関する基礎知識・技術を習得する。 2.応援派遣の概要を理解し、研修修了者として実際の派遣時に対応できる技能を習得する。
外来における在宅療養支援能力向上のための研修	オンデマンド受講期間： 11/8～12/14 集合研修： 12/15(日)	外来看護を取り巻く現状と課題のもと、地域における自施設の外来が果たすべき役割と、みずからが外来で担うべき役割を認識するとともに、外来患者を支えるために必要な在宅療養支援に関する知識を習得。習得した知識を、在宅療養支援の強化に向けた取り組みに役立てる。

分類 3 人材育成や教育支援を行う者を対象とした研修

研 修 名	開催期間	目 標
中堅ナースに役立つスキル	7/3(水)～8/2(金)	中堅看護師として期待される役割を自覚し、その役割を実践するために必要な知識・技術を再獲得する。
コーチングを活かした OJT の際の指導力、研修の設計力を高めよう	10/19(土)20(日)	教える技術、教え上手の育て方の技術を深め、教育計画作成ポイントを理解する。
はじめてのリーダー ～看護職に求められるリーダーシップ～	10/24(木)	リーダーシップを発揮するために必要な基礎知識を学び、チームでの役割を理解する。
スタッフ指導における「気になる」を解決! 個性を活かす関わりと支援しやすい職場作り	11/17(日)	「気になる」スタッフの判断と効果的で具体的な指導方法を理解する。
はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～【第 1 回】	12/5(木)・6(金)	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護師教育のビジョンを明確化する。
はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～【第 2 回】	2025 年 1/9(木)・10(金)	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護師教育のビジョンを明確化する。

分類 4 看護管理者を対象とした研修

研 修 名	開催期間	目 標
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版 2024【第 1 回】	オンデマンド受講期間： 7/5～23 集合研修： 7/25(木)午後	効果的な業務運営と良質な看護サービスの提供を目的とした看護補助者の業務範囲や教育および就労環境について理解し、自施設における看護補助者体制整備の一助となる。
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版 2024【第 2 回】	オンデマンド受講期間： 7/5～23 集合研修： 7/25(木)午前	効果的な業務運営と良質な看護サービスの提供を目的とした看護補助者の業務範囲や教育および就労環境について理解し、自施設における看護補助者体制整備の一助となる。

分類 5 資格認定教育

研 修 名	開催期間	教育目的・到達目標
認定看護管理者教育課程 第 1 回 ファーストレベル	5/16(木)～ 9/22(日)	看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。 ・ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。 ・組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。 ・看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。
認定看護管理者教育課程 第 2 回 ファーストレベル	10/3(木)～ 2025 年 1/26(日)	
認定看護管理者教育課程セカンドレベル	6/27(木)～ 12/8(日)	看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。 ・組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。 ・保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。
ファーストレベルフォローアップ① 看護管理実践報告会	6/16(日)	立案した看護管理実践計画に沿って実践した経過並びにその結果を報告する。
セカンドレベルフォローアップ 看護管理実践報告会	9/1(日)	
ファーストレベルフォローアップ② 看護管理実践報告会	2025 年 2/15(土)	

Ⅱ.2024 年度 受講者概要

1. 2024/4/1 ～ 2025/3/31

2. 実施研修数 55

3. 分類別研修数

*看護補助者標準研修は除く

	企画数	実施数	定員	応募者数	受講決定者	参加者数
分類1	33	33	1,822	1,316	1,283	1,232
分類2	7	7	380	390	362	359
分類3	6	6	330	256	253	251
分類4	2	2	100	135	135	130
分類5	6	6	242	239	239	234
計	54	54	2,874	2,336	2,272	2,206

4. 講義形態: 集合 39 / ハイブリッド 9 / オンデマンド+集合 5 / eラーニング+集合+実習 1

5. 会員の受講修了状況(支部※個人会員含む *「医療安全」、「共催」、「県受託」研修は除く

会員数		一般研修		資格認定教育	
		受講数	%	受講数	%
県 南	4,917	889	18.1%	112	2.3%
県 央	2,406	638	26.5%	56	2.3%
県 北	2,005	378	18.9%	54	2.7%
4離島	409	42	10.3%	13	3.2%
総 計	9,737	1,947	20.0%	235	2.4%

6. 会員施設の受講修了状況 *「医療安全」、「共催」、「県受託」研修は除く

施設数	受講施設数	%	
県 南	106	40	43.4%
県 央	78	31	47.4%
県 北	49	22	46.9%
4離島	27	8	37.0%
総 計	260	116	44.6%

7.研修概要一覧

	研修No.	研 修 名	受講状況		
			日数	定員	受講決定者数
一般研修	1	感染管理	7	50	53
	2	感染症の基礎知識と感染対策①(感染管理研修公開)	0.5	50	18
	3	医療安全管理者養成(日本看護協会主催インターネット配信オンデマンド活用)集合研修	35時間 集合1日	60	50
	4	中堅ナースに役立つスキル	6	40	19
	5	感染症の基礎知識と感染対策②(感染管理研修公開)	0.5	50	33
	6	呼吸器に強くなる! 基礎から学ぶ呼吸①～フィジカルアセスメント～	1	60	45
	7	地域と病院をつなぐ外来看護～在宅療養支援における外来看護の課題・役割～	0.5	60	37
	8	研究計画書を作ってみよう～看護研究の基礎から学ぶ～	3	30	20
	9	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版2024	3時間 集合3時間	50	65
	10	職業感染防止の実際(感染管理研修公開)	0.5	50	23
	11	医療・看護における倫理 ～倫理的問題とその対処方法～	1	60	50
	12	看護の現場ですぐに役立つ看護記録 ～伝わる記録のコツと書き方～	1	60	55
	13	認知症高齢者の看護実践に必要な知識(JNA収録DVD研修)	2	60	69
	14	現場に役立つ! 褥瘡ケア ～最新知識に基づいたケアの実際～	1	60	82
	15	New患者の急変予測と急変対応～患者の様子が“何かおかしい”に気づく～	1	60	65
	16	New地域包括ケアシステムを知って看護の現場に活かそう学ぼう!	0.5	60	62
	17	腎臓に強くなる! 慢性腎臓病患者への看護と療養指導	1	60	30
	18	認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	1	60	33
	19	呼吸器に強くなる! 基礎から学ぶ呼吸② ～人工呼吸ケア～	1	60	31
	20	がん患者の自分らしい生活を支えるために①～がん放射線療法～	1	60	2
	21	高齢者の転倒予防を支えるロコモ体操予防の実際	1	60	14
	22	高齢者の食べるを支える摂食嚥下リハビリテーションの実際	1	60	41
	23	消化器に強くなる! 消化器領域の検査データの見方・活かし方	0.5	60	53
	24	急性期で起こりやすい対応が難しい場面での家族ケア	1	60	29
	25	地域包括ケア時代の看護職の役割～退院支援への取り組み～	1	60	64
	26	スタッフ指導における「気になる」を解決! 個性を活かす関わりと支援しやすい職場作り	1	60	42
	27	災害支援ナース養成研修	20時間 集合2日	30	25
	28	コーチングを活かしたOJTの際の指導力、研修の設計力を高めよう	1.5	50	19
	29	はじめてのリーダー ～看護職に求められるリーダーシップ～	1	60	42
	30	循環器に強くなる! 慢性心不全患者の看護	1	60	37
	31	循環器に強くなる! 循環器領域の検査データの見方・活かし方①[心電図編]	0.5	60	74
	32	クレームを起こさないための基本の対応とコツ	1	60	30
	33	がん患者の自分らしい生活を支えるために②～がん化学療法～	1	60	24
	34	がん患者の自分らしい生活を支えるために③～がん性疼痛～	1	60	18
	35	予兆を察知! 脳血管障害に必要なアセスメント	0.5	60	48
	36	はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～【第1回】 *同じ内容で2025年1/9・10開催	1.5	60	63
	37	感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策	0.5	60	43
	38	終末期における意思決定支援	1	60	59
	39	実践に活かす! 糖尿病の最新知識とセルフケア支援	1	60	24
	40	New外来における在宅療養支援能力向上のための研修	200分 集合0.5日	50	14
	41	はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～【第2回】	1.5	60	69
	42	循環器に強くなる! 循環器領域の検査データの見方・活かし方②[画像診断編]	0.5	60	55
認定 課程 看護 管理 者 教 育 ア ッ プ	43	認定看護管理者教育課程 第1回 ファーストレベル	20	50	39
	44	認定看護管理者教育課程 第2回 ファーストレベル	20	50	52
	45	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	31	30	37
	46	ファーストレベル フォローアップ① 2023年度看護管理実践報告会	1	44	44
	47	セカンドレベル フォローアップ 2023年度看護管理実践報告会	1	29	29
	48	ファーストレベル フォローアップ② 2024年度第1回看護管理実践報告会	1	39	39
共催	49	AHA BLSプロバイダーコース研修会(NPO法人日本ACLS協会)	1	12	12
長崎 県 委 託 事 業	50	訪問看護師養成講習会(eラーニング併用)	集合8日 実習3日	30	25
	51	長崎県看護職員認知症対応力・実践力向上研修	3	50	69
	52	介護施設等の看護実務者研修	3	60	54
研 究 加 入	53	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版2024	3時間 集合3時間	50	70
	54	認知症高齢者の看護実践に必要な知識(JNA収録DVD研修)	2	60	73
その他		看護補助者標準研修	610分 演習120分	60	22

研修名	感染管理		開催日	2024年6月20日～8月8日																																									
講 師	プログラム参照		企 画	研修センター																																									
目 的	感染管理の基礎知識を理解し、感染管理を実践するためのリーダーとしての役割遂行能力を養う。																																												
目 標	1) 感染管理者の役割と必要な専門的知識が理解できる。 2) 感染管理に必要な感染症の基礎知識が理解できる。																																												
受講者概要	<table><tr><td>応募者:53人</td><td>受講者:52人</td><td>アンケート回答者数:52人</td><td>回答率:100%</td></tr><tr><td>職種</td><td colspan="4">保健師:1人、助産師:0人、看護師:51人、准看護師:0人、その他:0人</td></tr><tr><td>臨床経験年数</td><td colspan="4">3年未満:1人、3～5年:8人、6～10年:8人、11～20年:18人、21年以上:17人</td></tr></table>					応募者:53人	受講者:52人	アンケート回答者数:52人	回答率:100%	職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:51人、准看護師:0人、その他:0人				臨床経験年数	3年未満:1人、3～5年:8人、6～10年:8人、11～20年:18人、21年以上:17人																													
応募者:53人	受講者:52人	アンケート回答者数:52人	回答率:100%																																										
職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:51人、准看護師:0人、その他:0人																																												
臨床経験年数	3年未満:1人、3～5年:8人、6～10年:8人、11～20年:18人、21年以上:17人																																												
研修内容	<table><tr><th>回</th><th>日</th><th>時</th><th>内 容</th><th>講 師</th></tr><tr><td>1</td><td>6/20(木) 公開</td><td>13:30～ 16:00</td><td>感染症の基礎知識と感染対策① ・感染症診療の原則</td><td>古本朗嗣 長崎大学病院</td></tr><tr><td>2</td><td>6/21(金)</td><td>9:30 ～ 15:30</td><td>感染管理とマネジメント ・リーダーの資質 ・現状と問題点 ・感染対策予防において看護師の役割</td><td>金澤美弥子 感染管理 認定看護師</td></tr><tr><td>3</td><td>7/17(水) 公開</td><td>13:30 ～ 16:00</td><td>感染症の基礎知識と感染対策② ・呼吸器ウイルス感染症対策 ・院内クラスター ・耐性菌のアウトブレイクへの対応</td><td>古本朗嗣 長崎大学病院</td></tr><tr><td>4</td><td>7/18(木)</td><td>9:30 ～ 15:30</td><td>感染予防対策の基本—標準予防策（演習） ・標準予防策と経路別予防対策 ・防御具の基準と使用法 ・ゾーンニングの考え方と実際</td><td>森英恵 感染管理 認定看護師</td></tr><tr><td>5</td><td>7/30(火) 公開</td><td>13:30 ～ 16:30</td><td>職業感染防止の実際 ・職業感染防止の背景・針刺し防止対策・接触者対策 ・患者環境と感染予防・基本ケアと感染予防</td><td>林田久美 感染管理 認定看護師</td></tr><tr><td>6</td><td>7/31(水)</td><td>9:30 ～ 15:30</td><td>侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際 ・血流感染予防対策 ・人工呼吸器関連肺炎予防対策・手術部位感染予防対策</td><td>木場みちよ 感染管理 認定看護師</td></tr><tr><td>7</td><td>8/8(木)</td><td>9:30～ 15:30</td><td>感染対策の現状と課題（演習） ・自施設(自部署)の現状・課題の明確化</td><td>金澤美弥子 森英恵</td></tr></table>					回	日	時	内 容	講 師	1	6/20(木) 公開	13:30～ 16:00	感染症の基礎知識と感染対策① ・感染症診療の原則	古本朗嗣 長崎大学病院	2	6/21(金)	9:30 ～ 15:30	感染管理とマネジメント ・リーダーの資質 ・現状と問題点 ・感染対策予防において看護師の役割	金澤美弥子 感染管理 認定看護師	3	7/17(水) 公開	13:30 ～ 16:00	感染症の基礎知識と感染対策② ・呼吸器ウイルス感染症対策 ・院内クラスター ・耐性菌のアウトブレイクへの対応	古本朗嗣 長崎大学病院	4	7/18(木)	9:30 ～ 15:30	感染予防対策の基本—標準予防策（演習） ・標準予防策と経路別予防対策 ・防御具の基準と使用法 ・ゾーンニングの考え方と実際	森英恵 感染管理 認定看護師	5	7/30(火) 公開	13:30 ～ 16:30	職業感染防止の実際 ・職業感染防止の背景・針刺し防止対策・接触者対策 ・患者環境と感染予防・基本ケアと感染予防	林田久美 感染管理 認定看護師	6	7/31(水)	9:30 ～ 15:30	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際 ・血流感染予防対策 ・人工呼吸器関連肺炎予防対策・手術部位感染予防対策	木場みちよ 感染管理 認定看護師	7	8/8(木)	9:30～ 15:30	感染対策の現状と課題（演習） ・自施設(自部署)の現状・課題の明確化	金澤美弥子 森英恵
回	日	時	内 容	講 師																																									
1	6/20(木) 公開	13:30～ 16:00	感染症の基礎知識と感染対策① ・感染症診療の原則	古本朗嗣 長崎大学病院																																									
2	6/21(金)	9:30 ～ 15:30	感染管理とマネジメント ・リーダーの資質 ・現状と問題点 ・感染対策予防において看護師の役割	金澤美弥子 感染管理 認定看護師																																									
3	7/17(水) 公開	13:30 ～ 16:00	感染症の基礎知識と感染対策② ・呼吸器ウイルス感染症対策 ・院内クラスター ・耐性菌のアウトブレイクへの対応	古本朗嗣 長崎大学病院																																									
4	7/18(木)	9:30 ～ 15:30	感染予防対策の基本—標準予防策（演習） ・標準予防策と経路別予防対策 ・防御具の基準と使用法 ・ゾーンニングの考え方と実際	森英恵 感染管理 認定看護師																																									
5	7/30(火) 公開	13:30 ～ 16:30	職業感染防止の実際 ・職業感染防止の背景・針刺し防止対策・接触者対策 ・患者環境と感染予防・基本ケアと感染予防	林田久美 感染管理 認定看護師																																									
6	7/31(水)	9:30 ～ 15:30	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際 ・血流感染予防対策 ・人工呼吸器関連肺炎予防対策・手術部位感染予防対策	木場みちよ 感染管理 認定看護師																																									
7	8/8(木)	9:30～ 15:30	感染対策の現状と課題（演習） ・自施設(自部署)の現状・課題の明確化	金澤美弥子 森英恵																																									
評 価	プログラム7日間はすべて集合研修で実施した。内容は最新の情報を取り入れながら、感染症の基礎知識、標準予防策、経路別感染予防対策まで幅広く知識を修得できるものであった。それぞれの受講生がグループ毎に一つのテーマについて演習を実施したことで、具体的な対策を考える機会となり、より実践に活かすことのできる内容となった。理解度・満足度では、「できた」「おおむねできた」が合わせて9割を超えていた。活用度では最終日のみ記述式であったが、「本日の演習を元にリーフレットを作成し家族面会時、家族へ感染予防の注意喚起を実施しようと思います」など実践的な意見が多く、非常に満足度が高かった。研修の目標は達成できたと判断する。 できた おおむねできた どちらともいえない <table><tr><td>理解度</td><td>48%</td><td>49%</td><td>3%</td></tr><tr><td>満足度</td><td>57%</td><td>41%</td><td>1%</td></tr><tr><td>活用度</td><td>52%</td><td>30%</td><td>3%</td></tr></table> 記述式回答があり、100%となっていない					理解度	48%	49%	3%	満足度	57%	41%	1%	活用度	52%	30%	3%																												
理解度	48%	49%	3%																																										
満足度	57%	41%	1%																																										
活用度	52%	30%	3%																																										

研修名	感染症の基礎知識と感染対策① (感染管理研修公開)			開催日	2024 年 6 月 20 日
講 師	古本朗嗣（長崎大学病院）			企 画	教育委員会
目 標	感染症の基礎知識と感染対策を理解する。				
受講者 概 要	応募者:18 人		受講者:17 人	④対面: 6 名	⑤Zoom によるオンライン: 11 名
			アンケート回答者数: 16 人		回答率:94.1%
	職種	保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:16 人、准看護師:0 人、その他:0 人			
	臨床経験年数	3 年未満:1 人、3~5 年:4 人、6~10 年:2 人、11~20 年:5 人、21 年以上:4 人			
研 修 内 容	ハイブリッド研修で実施し、感染管理シリーズ研修の 1 回目の研修と合同で行われた。 研修内容は感染症診療の原則として感染症を疑う状況や起因菌推定から治療薬の決定、効果の判定などであった。今回講師はオンラインでの参加で、講義形式で行われた。				
評 価	アンケート回答者数 16 名のうち、「理解度」は「できた」「おおむねできた」75%、「満足度」に関しても「できた」「おおむねできた」が 93.8%を占めていた。 今後実践できることについては「血培採取時のコンタミネーションや消毒方法の指導をしていきたい」「アセスメントに活かしていきたい」などがあった。 本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」43.8%、「思考が明確になった」「アイデアが得られた」がともに 25%であった。感想、ご意見では「わかりやすい講義だった」という意見もあったが、「講義内容として難しいと感じる部分もあったが勉強になりました」という意見もあった。 オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者はいなかったが、受講者からのマイク（音声）が on になることがあり、即時に研修担当者で音声を切らないといけない場面があった。集合研修ではマナブルログインに時間がかかる受講者がいたが、最終的にアンケート回答は全員実施できた。				

研修名	感染症の基礎知識と感染対策② (感染管理研修公開)			開催日	2024 年 7 月 17 日
講 師	古本朗嗣（長崎大学病院）			企 画	教育委員会
目 標	感染症の基礎知識と感染対策を理解する。				
受講者 概 要	応募者:33 人	受講者:33 人	④対面:10 名	⑤Zoom によるオンライン:23 名	
	アンケート回答者数：29 人			回答率:87.9%	
	職種	保健師： 0 人、助産師： 1 人、看護師:27 人、准看護師:1 人、その他：0 人			
	臨床経験年数	3 年未満:2 人、3～5 年：4 人、6～10 年：3 人、11～20 年：11 人、21 年以上：9 人			
研 修 内 容	研修内容は、呼吸器ウイルス感染症とアウトブレイクへの対応について講義形式で行われた。				
評 価	アンケート回答者 29 名のうち、「理解度」「満足度」では、「できた・おおむねできた」が 89.7%であった。講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「細菌培養検査をせず、抗生剤を使用することがあるため、感染対策に苦慮しているが、今できる感染対策を最大限行う」「器具の消毒や吸引後の換気などに気を配っていく」などの記載があった。 本研修を通しての学びでは、「知識の整理ができた」「アイデアが得られた」「思考が明確になった」など好意的な意見が多く、研修の目標は達成できたと判断する。 オンライン研修について、トラブル発生「有」と回答した受講者は 60%であった。トラブルの内容は、音声トラブルが続き、「オリエンテーションや研修最後の説明の声が聞こえなかった」「音声が途切れることが多く、聞き取りにくかった」という内容だった。また「画面が途中で消えた」、「講師の先生や受講者の顔が見えず、受講中不安だった」という意見があった。ZOOM に招待する際に 13：20～招待できない事態が発生し、講師用パソコンもトラブルがあり、講義が 5 分遅れで開始した。				

研修名	呼吸器に強くなる！基礎から学ぶ呼吸① ～フィジカルアセスメント～			開催日	2024 年 7 月 19 日
講 師	尾野敏明（東海大学看護師キャリア支援センター）			企 画	教育委員会
目 標	フィジカルアセスメントの目的、正しい観察法、評価方法を理解できる。				
受講者 概 要	応募者:45 人		受講者:43 人	④対面: 43 名	⑤Zoom によるオンライン: 0 名
			アンケート回答者数：41 人		回答率:95.3%
	職種		保健師:0 人、助産師:1 人、看護師:38 人、准看護師:2 人、その他：0 人		
	臨床経験年数		3 年未満:13 人、3～5 年：7 人、6～10 年：5 人、11～20 年:9 人、21 年以上：7 人		
研 修 内 容	研修内容は、フィジカルアセスメントについて講義形式で行われた。				
評 価	アンケート回答者の 80.5%（33 名）は受講動機が興味・関心があったとされている。講義内容について「理解度」は「できた・おおむねできた」95.1%「満足度」では、「できた・おおむねできた」が 100%であった。 講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「臨床でフィジカルアセスメントを実践していきたい」「呼吸音を聞く時に聴診器の当て方をしっかりと行い、記録の際にも正しい言葉を使用するようにしたい」などの記載があった。 本研修での学びでは、「知識の整理ができた」と 39 名と半数以上の受講者が回答しているため、研修の目標は達成できたと判断する。 今回の公開研修については、参加者 1 名が教育委員・研修センターのスタッフに声をかけることなく途中退出されていた。				

研修名	地域と病院をつなぐ外来看護 ～在宅療養支援における外来看護の課題・役割～			開催日	2024 年 7 月 20 日
講 師	塩田美佐代(医療法人社団真養会)			企 画	教育委員会
目 標	住み慣れた地域での生活を支えるための在宅療養支援者に求められる役割を理解し、外来に求められる専門性を学ぶ。				
受講者 概 要					
	応募者:37 人	受講者:35 人	④対面:13 名	⑤Zoom によるオンライン:22 名	
	アンケート回答者数 : 32 人		回答率:91.4%		
	職種	保健師:0 人、助産師:1 人、看護師:31 人、准看護師:0 人、その他 : 0 人			
	臨床経験年数	3 年未満:0 人、3～5 年 : 0 人、6～10 年 : 1 人、11～20 年: 14 人、21 年以上 : 17 人			
研 修 内 容	ハイブリッド研修で実施。研修内容は、地域包括ケアシステムと外来を取り巻く医療情勢、外来看護師に求められる役割と必要なスキル、外来看護の課題と体制整備、外来看護師が実践する在宅療養支援であった。講師はオンラインでの参加で、講義形式で行われた。				
評 価	アンケート回答者数 32 人のうち、「理解度」と「満足度」とともに、「できた」「おおむねできた」が 100%であった。講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「重症化する前に外来で気になる患者を拾いあげたい」「外来において患者の在宅での療養支援に向けて、現状を考え体制を考えていきたい」などの記載があった。 本研修の学びと・感想では、「知識の整理ができた」が 71%、「アイデアが得られた」が 65%であり、「外来看護の重要性が理解できた」「タイムリーな講義でわかりやすく知識が整理されとても勉強になりました」などの意見が多くみられ、研修の目標は達成できたと判断する。 オンライン研修で運営上の問題があったと回答した受講者はいなかったが、受講者のマイクが ON になることが再三あり、その都度担当者が対応した。				

研修名	研究計画書を作ってみよう ～看護研究の基礎から学ぶ～	開催日	2024年7月25日 2024年8月7日 2024年8月21日												
講師 演習支援	大重 育美（長崎県立大学） 三重野愛子（長崎県立大学）	企画	教育委員会												
目標	1) 看護研究の遂行過程を理解する。 2) 看護研究における倫理と倫理的配慮を理解する。 3) 研究に必要な研究論文を的確に検索できる技術を習得する。 4) 論文の精読を通して研究課題を焦点化する。 5) 焦点化した研究課題を解明するための実現可能な研究計画書を作成する。														
受講者 概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:20人</td><td>受講者:19人</td><td>アンケート回答者数:17人</td><td>回答率:89.5%</td></tr> <tr> <td>職種</td><td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:17人、准看護師:0人、その他:0人</td></tr> <tr> <td>臨床経験年数</td><td colspan="3">3年未満:0人、3～5年:5人、6～10年:4人、11～20年:2人、21年以上:6人</td></tr> </table>			応募者:20人	受講者:19人	アンケート回答者数:17人	回答率:89.5%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:17人、准看護師:0人、その他:0人			臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:5人、6～10年:4人、11～20年:2人、21年以上:6人		
応募者:20人	受講者:19人	アンケート回答者数:17人	回答率:89.5%												
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:17人、准看護師:0人、その他:0人														
臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:5人、6～10年:4人、11～20年:2人、21年以上:6人														
研修 内容	本研修は計3回の集合研修だった。研修の主な内容は看護研究の基礎的知識、文献検索と先行研究分析の実際、研究計画書の実際であった。第1回目は看護研究の基礎知識の講義、第2回目は各受講者の作成中の研究計画書をグループワークで意見交換を実施、第3回目は作成した研究計画書の発表をうけて、意見交換や講師による個別指導が行われた。														
評価	第1回～第3回のアンケート回答者数17名のうち、「理解度」は「できた」「おおむねできた」93.6%、「満足度」は「できた」「おおむねできた」が95.7%を占めており、回答の割合も研修毎で差は無かった。 講義に関しては「基礎的な部分から学ぶ機会を得られてよかった」「計画書も書き方を学ぶ事が出来たので、初めての看護研究に活かしていこうと思う。」「今回の学びを活かしていきたい」との良い意見があったが、1回目の研修では病欠などで欠席者が数名おり、オンライン講習での対応を希望した受講者がいた。 その後のグループワーク後は「みなさんの意見が聞けて参考になりました」「先生からのご助言をいかして計画書作成できるよう頑張ります。」などの満足した意見が殆どで、研究計画書の発表後も「研究のおもしろさを学ぶことができました」「直接アドバイスを受けることができ良かった」の意見があった。 研修全体の学び・感想では「研修で得た知識を研究発表に活かしたい」「研究企画書を完成させ次にいかすことができそう」と好評価で【理解度】【満足度】の結果、感想・意見の記述内容より、本研修の目標は達成できたと判断する。研修全体に対する意見としては「3回の研修でしたが間隔が近すぎると感じた。」とあり、次年度は研修開催時期や開催期間などの検討をしていく必要がある。														

研修名	職業感染防止の実際(感染管理研修公開)			開催日	2024 年 7 月 30 日	
講 師	林田久美 (済生会長崎病院)			企 画	教育委員会	
目 標	医療現場で起きる職業感染を防止するための方策を理解する。					
受講者概要	応募者:23 人	受講者:22 人	④対面:8 名	⑤Zoom によるオンライン:14 名		
		アンケート回答者数 : 19 人		回答率:82.6%		
	職種	保健師: 0 人、助産師: 0 人、看護師:19 人、准看護師:0 人、その他 : 0 人				
	臨床経験年数	3 年未満:0 人、3~5 年 : 7 人、6~10 年 : 3 人、11~20 年: 5 人、21 年以上 : 4 人				
研 修 内 容	研修内容は職業感染防止の背景、針刺し事故防止、接触者対策、患者環境と感染予防、基本ケアと感染予防について、講義形式で行われた。					
評 価	アンケート回答者 19 名のうち「理解度」では、「できた」「おおむねできた」が 79%、「満足度」では「できた」「おおむねできた」が 95%を占めていた。					
	今後実践できることについては、「血培の採取時の消毒方法はスタッフに伝えたい」「抗生剤を使用している意味を考えながら看護をしたい」「病院内で感染委員会に所属しており職業感染防止について学び、スタッフに発信していきたいと思った」との記載があった。 本研修の感想・意見では「講義内容として難しいと感じる部分もありましたが、勉強になりました」との感想があった。 研修全体の学び・感想では「知識の整理が出来た」84.1%「アイデアが得られた」26.5%「思考が明確になった」28.5%であり、研修の目標は達成できたと判断する。 オンライン研修の運営上の問題では、「zoom で参加したが、資料は各自印刷だったので、コンビニで印刷しようとしたら 10MB を超える印刷が出来なかった。今回の資料が 16.4MB だった為、個人印刷の場合は分割して資料を送信して欲しい」という要望があった。					

研修名	医療・看護における倫理 ～倫理的問題とその対処方法～		開催日	2024 年 8 月 20 日												
講 師	中尾久子（第一薬科大学）		企 画	教育委員会												
目 標	医療・看護における倫理的問題を理解する。事例を通して倫理的問題に対処するための視点と方法を理解する。															
受講者 概 要	<table><tr><td>応募者:50 人</td><td>受講者:49 人</td><td>アンケート回答者数：42 人</td><td>回答率： 85.7%</td></tr><tr><td>職種</td><td colspan="3">保健師:1 人、助産師:3 人、看護師:38 人、准看護師:0 人、その他：0 人</td></tr><tr><td>臨床経験年数</td><td colspan="3">3 年未満:4 人、3～5 年：7 人、6～10 年：5 人、11～20 年: 15 人、21 年以上：11 人</td></tr></table>				応募者:50 人	受講者:49 人	アンケート回答者数：42 人	回答率： 85.7%	職種	保健師:1 人、助産師:3 人、看護師:38 人、准看護師:0 人、その他：0 人			臨床経験年数	3 年未満:4 人、3～5 年：7 人、6～10 年：5 人、11～20 年: 15 人、21 年以上：11 人		
	応募者:50 人	受講者:49 人	アンケート回答者数：42 人	回答率： 85.7%												
	職種	保健師:1 人、助産師:3 人、看護師:38 人、准看護師:0 人、その他：0 人														
臨床経験年数	3 年未満:4 人、3～5 年：7 人、6～10 年：5 人、11～20 年: 15 人、21 年以上：11 人															
研 修 内 容	研修は、講義・演習形式で実施された。 研修内容は、看護における倫理的問題、医療者の行為と倫理的責任、倫理的問題の発生予防と解決方法、事例検討等であった。事例の倫理的問題をグループワークで検討し、その後検討内容を講師より指名されたグループが発表した。															
評 価	アンケート回答者 42 名のうち、「理解度」の「できた・おおむねできた」の回答者は 92.8%、「満足度」では 88.1%であった。研修の活用では、「倫理カンファレンスを実施する際の参考になった」「指導に活かしたいです」などの記載があった。 研修の感想や意見には、「漫画も内容に入っており、わかりやすかったです」「資料や講義がわかりやすかった」という記載があった。理解度・満足度、研修の感想等から、本研修の目標は達成できたと判断する。															

研修名	看護の現場ですぐに役立つ看護記録 ～伝わる記録のコツと書き方～			開催日	2024 年 8 月 22 日
講 師	中島美津子（東京医療保健大学）			企 画	教育委員会
目 標	看護記録の重要性を知り、看護実践が見える看護記録の方法を理解する。				
受講者 概 要					
	応募者:55 人	受講者:53 人	アンケート回答者数:46 人	回答率:86.8%	
	職種	保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:43 人、准看護師:3 人、その他 : 0 人			
	臨床経験年数	3 年未満:1 人、3～5 年 : 6 人、6～10 年 : 3 人、11～20 年:13 人、21 年以上 : 23 人			
研 修 内 容	研修は、講義・演習形式で実施された。 研修内容は、看護記録の基礎知識、看護記録の実際、看護記録の情報開示とリスクマネジメント、看護記録の効率化等であった。グループワークでは、事例の問題解決を導き、アクティブ・ラーニングの形式も取り入れられていた。				
評 価	アンケート回答者 46 名のうち、「理解度」の「できた・おおむねできた」の回答者は 89.2%、「満足度」では 91.3%であった。研修の活用では、「記録の見直し アセスメント能力を向上していく」「記録の勉強会の参考にしたいと思います」などの記載があった。 研修の感想や意見には、「とても勉強になりました。今後は記録委員として他の方へも伝えられたらと思います」「スタッフ指導に役立てたいと受講しました。記録に関する howto が得られればと思いましたが、記録のノウハウではなく、アセスメント能力の向上など、看護師としての質の向上や自己研鑽が重要だと学んだことが大きな収穫でした」「昨今の医療の情勢についても情報を得られ、とても有意義な研修でした」という記載があり、概ね高評価の感想が記載され、記載量も多く、受講者の満足度が非常に高かったのが伺える。理解度・満足度、研修の感想等から、本研修の目標は達成できたと判断する。 しかし、1 名から「延長になるなら最初から設定を適切にしてほしい」という意見があった。事前に講師と講義時間の確認を実施していたが、講義が約 20 分延長した。講義時間延長に対する対応は、講師との質疑応答時間を省略し、質問や疑問についてはアンケートに記載して頂くよう依頼した。				

研修名	現場に役立つ！褥瘡ケア ～最新知識に基づいたケアの実際～		開催日	2024 年 12 月 13 日												
講 師	上戸竜一（諫早総合病院）		企 画	教育委員会												
目 標	褥瘡予防の重要性や褥瘡ケアの具体的な方法を理解する															
受講者 概 要	<table><tr><td>応募者:82 人</td><td>受講者:74 人</td><td>アンケート回答者数：72 人</td><td>回答率：97.3%</td></tr><tr><td>職種</td><td colspan="3">保健師:0 人、助産師:1 人、看護師:66 人、准看護師:5 人、その他：0 人</td></tr><tr><td>臨床経験年数</td><td colspan="3">3 年未満:9 人、3～5 年：7 人、6～10 年：12 人、11～20 年:15 人、21 年以上：29 人</td></tr></table>				応募者:82 人	受講者:74 人	アンケート回答者数：72 人	回答率：97.3%	職種	保健師:0 人、助産師:1 人、看護師:66 人、准看護師:5 人、その他：0 人			臨床経験年数	3 年未満:9 人、3～5 年：7 人、6～10 年：12 人、11～20 年:15 人、21 年以上：29 人		
	応募者:82 人	受講者:74 人	アンケート回答者数：72 人	回答率：97.3%												
	職種	保健師:0 人、助産師:1 人、看護師:66 人、准看護師:5 人、その他：0 人														
臨床経験年数	3 年未満:9 人、3～5 年：7 人、6～10 年：12 人、11～20 年:15 人、21 年以上：29 人															
研 修 内 容	研修は集合研修で、午前・午後共に講義形式で行われた。研修内容は、褥瘡の発生のメカニズム、発生要因、ケアについての講義と症例を用いた演習があった。															
評 価	アンケート回答者の84.7%の受講動機が「役割を担っているため」、「興味・関心があった」とされていた。講義内容について「理解度」は「できた・おおむねできた」と回答されている人は100%、「満足度」では、「できた」「おおむねできた」が100%であった。講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「褥瘡創部の処置に不安があったが、軟膏の選択などが明確になりました！もう少し細かく説明して頂けたら良かったと思いますが、時間の関係で駆け足になったのが少し残念に思いました」「訪問看護なので、創部をみて軟膏や処置など判断を求められることが多いです。後半の講義を詳しく聞きたかったです違う機会によりしくお願いします。とても、勉強になりました」「最新の知識を得て、同僚への伝達とケアの統一をはかる。介護スタッフへの教育をしていきたい」などの記載があった。 本研修での学びでは、「知識の整理ができた」32.6%、「アイデアが得られた」20.3%と回答しており、理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。															

研修名	患者の急変予測と急変対応 ～患者の様子が”何かおかしい”に気づく～		開催日	2024 年 9 月 5 日
講 師	本田智治（長崎大学病院） 江川 徹（長崎大学病院）		企 画	教育委員会
目 標	急変予測と急変対応に関する基礎的な知識を修得し、急変対応力を高めることができる。			
受講者 概 要	応募者:65 人		受講者:63 人	アンケート回答者数：60 人
			回答率：96.8%	
	職種	保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:56 人、准看護師:4 人、その他：0 人		
	臨床経験年数	3 年未満:19 人、3～5 年：17 人、6～10 年：8 人、11～20 年:8 人、21 年以上：8 人		
研 修 内 容	研修は、4 セクションにわけ、アクティブラーニング後に講義という形式で実施された。内容は、急変予測に関する基礎知識、急変時の対応・アプローチ方法、様々な症例に対する急変予測および急変対応、急変時の医師や他の医療者への報告・応援要請方法であった。動画の患者事例の迅速評価・一時評価、急変対応の方法立案までをグループディスカッション、急変時の報告は実際に受講者同士でデモンストレーションを実施された。			
評 価	アンケート回答者 60 名のうち、「理解度」「満足度」の「できた・おおむねできた」の回答者は、ともに 100%であった。研修の活用では、「迅速評価、一次評価、SBAR の一連の流れを実践し急変に気づき、対応できるようにしたい」「今日学んだことを委員会活動や新人教育に役立てていきたい」と思います」等の記載が多くあった。研修の時間経過とともに、受講生の急変時のアセスメント能力が高まっているのが、グループワークの記録内容から見て取れた。 研修の感想や意見には、「凄く学びになりました。 グループワークで眠くなく楽しかったです。丁寧な講義をありがとうございました」「とても有意義な研修となった。今後に活かしていきたい」等の高評価の感想の記載が多くあった。受講者の満足度が非常に高かったのが伺える。理解度・満足度、研修の感想等から、本研修の目標は十分に達成できたと判断する。			

研修名	腎臓に強くなる！慢性腎臓病患者への看護と療養指導			開催日	2024 年 9 月 13 日
講 師	中野国枝（長崎大学病院）			企 画	教育委員会
目 標	慢性腎臓病の基礎的知識を深め、患者ケアや家族指導について理解する。				
受講者 概 要					
	応募者:30 人	受講者:29 人	アンケート回答者数：26 人	回答率：89.7%	
	職種	保健師:0 人、助産師:2 人、看護師:24 人、准看護師:0 人、その他：0 人			
	臨床経験年数	3 年未満:2 人、3～5 年：3 人、6～10 年：5 人、11～20 年:7 人、21 年以上：9 人			
研 修 内 容	研修は、午前・午後共に講義・グループワーク形式で行われた。 研修内容は、慢性腎臓病患者の看護についての講義であり、腎臓の働き、腎代替療法、血液透析、腹膜透析、腎臓移植、患者への支援と介入方法、多職種連携と倫理であった。3 グループに分かれ、途中事例について検討するグループワークも行われた。午後は腹膜透析の実際を業者・講師からの説明があり、機器を用いて実際に体験しながら行われた。				
評 価	アンケート回答者の 88.5%（23 名）は受講動機が興味・関心があったと回答している。講義内容について「理解度」は「できた・おおむねできた」96.2%、「満足度」では、「できた・おおむねできた」が 88.5%であった。講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「腹膜透析について学ぶことができてよかったです」「慢性腎臓病患者への看護について学ぶことができました」「透析導入が少しでも遅らせることができるように生活指導をして行きたい」「腹膜透析の実際を見ることができて良かったです」などの記載があった。 本研修での学びでは、「知識の整理ができた」38.5%、「アイデアが得られた」15.4%、「充実感が得られた」13.5%が回答しており、満足度、研修の感想等から、本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	認知症高齢者の正しいアセスメントとケア			開催日	2024 年 9 月 19 日
講 師	飯山有紀 (熊本保健科学大学キャリア教育研修センター)			企 画	教育委員会
目 標	認知症高齢者を正しく捉えるためのアセスメントの視点を理解する。				
受講者 概 要	応募者:33 人		受講者:32 人	アンケート回答者数 : 32 人	回答率 : 100%
	職種		保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:30 人、准看護師:2 人、その他 : 0 人		
	臨床経験年数		3 年未満:1 人、3～5 年 : 5 人、6～10 年 : 6 人、11～20 年:10 人、21 年以上 : 10 人		
研 修 内 容	研修は講義形式で行われた。研修内容は、高齢者の理解、認知症とは暮らしの障害である、認知症とは脳の病気である、認知症の人が抱える痛みを予測し予防する（認知機能障害とBPSD）、認知症への深い理解、認知症と薬剤の知識、認知症高齢者に対する倫理的配慮と意思決定支援についてであった。				
評 価	アンケート回答者数 32 名のうち、「理解度」は「できた」が 50%「おおむねできた」が 43.8%「どちらともいえない」3.1%であった。「満足度」は「出来た」50%「おおむねできた」50%であった。今後実践したいことについては「認知症の原因疾患によって、必要なケアが変わってくるのでその人に合わせた対応をできるようにしたい」「患者さんの思いをしっかりと聞いて関わりたい」「ケア側の主観でみるのではなく、客観的に観察したうえで話を聞きケアを行う」等があった。本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」が 44.3%と最も多く、本研修の感想や意見でも、「高齢化社会になっているため、このような研修を増やしていただけたら、看護の役にたてたい」「基本的な知識を復習しつつ、知識の整理が出来た。今度は具体的なケアについての研修を受けてみたいです。」など、高評価の感想の記載が多くあり、受講者の満足度は高かったのが伺える。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	呼吸器に強くなる！基礎から学ぶ呼吸② ～人工呼吸ケア～			開催日	2024年9月20日
講 師	尾野敏明（東海大学看護師キャリア支援センター）			企 画	教育委員会
目 標	人工呼吸器を装着している患者ケアの基礎的な知識を修得する。				
受講者 概 要	応募者:31 人		受講者:30 人	アンケート回答者数：28 人	回答率：93.3%
	職種		保健師:0 人、助産師： 0 人、看護師:27 人、准看護師:1 人、その他：0 人		
	臨床経験年数		3 年未満:5 人、3～5 年：6 人、6～10 年：5 人、11～20 年:7 人、21 年以上：5 人		
研 修 内 容	研修は、講義形式で行われた。講義途中、問題に対して受講者の携帯を使用してリアルタイムで回答する形式もとられた。研修内容は、呼吸生理、人工呼吸器の基本的知識、リスク管理につながる人工呼吸器管理、アラーム対応と緊急時の対処方法、人工呼吸器装着中の患者ケアなどであった。				
評 価	アンケート回答者 28 名のうち、「理解度」の「できた・おおむねできた」は 100%、「満足度」の「できた・おおむねできた」は 96.4%であった。研修の活用では、「病態生理を考えながら実践したい」「フィジカルアセスメントに続いて受講させていただきました。現在、プリセプターをしており、今後の新人教育に生かしていきたいです。わかりやすい講義で知識の整理にもなりました」などの記載があった。研修受講者のうち 9 名が「基礎から学ぶ呼吸器①」の研修を受け、本研修に続けて参加されていた。 研修の感想や意見には、「とてもわかりやすく、興味を持ちました。ありがとうございます」「人工呼吸器に対する知識が整理された。観察とケアなどわかりやすかった」などの感想の記載があった。理解度・満足度、研修の感想等から、本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	がん患者の自分らしい生活を支えるために① ～がん放射線療法～	開催日	2024 年 9 月 21 日												
講 師	大石景子（長崎医療センター） 山田裕美子（活水女子大学）	企 画	研修センター												
目 標	がん放射線療法を受ける患者を理解し、治療中の看護ができる。														
受講者 概 要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:2 人</td><td>受講者:2 人</td><td>アンケート回答者数:2 人</td><td>回答率:100%</td></tr> <tr> <td>職種</td><td colspan="3">保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:2 人、准看護師:0 人、その他:0 人</td></tr> <tr> <td>臨床経験年数</td><td colspan="3">3 年未満:0 人、3～5 年:0 人、6～10 年:1 人、11～20 年:0 人、21 年以上:1 人</td></tr> </table>			応募者:2 人	受講者:2 人	アンケート回答者数:2 人	回答率:100%	職種	保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:2 人、准看護師:0 人、その他:0 人			臨床経験年数	3 年未満:0 人、3～5 年:0 人、6～10 年:1 人、11～20 年:0 人、21 年以上:1 人		
応募者:2 人	受講者:2 人	アンケート回答者数:2 人	回答率:100%												
職種	保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:2 人、准看護師:0 人、その他:0 人														
臨床経験年数	3 年未満:0 人、3～5 年:0 人、6～10 年:1 人、11～20 年:0 人、21 年以上:1 人														
研 修 内 容	集合研修で実施。研修内容は放射線療法の最新の動向、副作用、症状マネジメントについての講義であった。講義の合間で質問を受けるなど双方向型の講義が行われ、午後からは事例を中心に学びを深めた。														
評 価	アンケート回答者 2 名のうち「理解度」「満足度」とともに「できた」と回答されていた。講義を受けて、今後実践できること、実践したいことについては、「放射線治療後の患者の観察ポイントやスキンケア、保湿など放射線治療による知識を実践に活かしたい」「治療中の有害事象時のケア、観察ポイントを理解して対応する」との記載があった。 本研修の感想・意見では「とてもわかりやすかったです」「副作用など注意深く観察すること、患者の心理、QOL、ACP などを理解した上でサポートすることが重要である」との感想があった。アンケート結果より満足度も高く、研修の目標は達成できたと判断するが、次年度は定員や研修形態、内容などについて検討を行う必要がある。														

研修名	高齢者の転倒予防を支えるロコモ体操予防の実際	開催日	2024 年 9 月 28 日												
講 師	富田伸次郎（愛野記念病院）	企 画	教育委員会												
目 標	運動器機能障害を正しく理解し、ロコモ予防のための基礎知識を修得する。														
受講者 概 要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:14 人</td><td>受講者:14 人</td><td>アンケート回答者数:14 人</td><td>回答率:100%</td></tr> <tr> <td>職種</td><td colspan="3">保健師:2 人、助産師:0 人、看護師:10 人、准看護師:0 人、その他:2 人</td></tr> <tr> <td>臨床経験年数</td><td colspan="3">3 年未満:1 人、3～5 年:3 人、6～10 年:2 人、11～20 年:1 人、21 年以上:7 人</td></tr> </table>			応募者:14 人	受講者:14 人	アンケート回答者数:14 人	回答率:100%	職種	保健師:2 人、助産師:0 人、看護師:10 人、准看護師:0 人、その他:2 人			臨床経験年数	3 年未満:1 人、3～5 年:3 人、6～10 年:2 人、11～20 年:1 人、21 年以上:7 人		
応募者:14 人	受講者:14 人	アンケート回答者数:14 人	回答率:100%												
職種	保健師:2 人、助産師:0 人、看護師:10 人、准看護師:0 人、その他:2 人														
臨床経験年数	3 年未満:1 人、3～5 年:3 人、6～10 年:2 人、11～20 年:1 人、21 年以上:7 人														
研 修 内 容	研修は、講義形式・グループワークで行われた。研修内容は、運動器の解剖と鎮痛剤の知識、骨粗鬆症と骨折の基礎知識、事例グループワーク、ロコモチャレンジ、転倒患者シミュレーション、院内転倒とロコモ、腰椎疾患、膝関節疾患であった。														
評 価	アンケート回答者数 14 名のうち、「理解度・満足度」とも「出来た・おおむねできた」100%であった。（研修参加者のうち 2 名は介護福祉士） 今後実践できること、実践したいことは「転倒患者発見時の受傷確認」「院内でのシミュレーションが出来て、今後実践することが出来ると感じました」「転倒のシミュレーションは即実践に役立つので、病棟でも伝達しようと思う」などがあった。 本研修を通しての学びでは、「知識の整理が出来た」が 50%で最も高く、感想、意見では「実際の受け持ち患者さんで疼痛コントロール出来ているのに、抗うつ薬を内服している患者さんが多い意味、メカニズムがすごく理解できました」「グループワークや実践があり、楽しく学習できました」等の記載があり、高評価の意見が多く受講者の満足度が高かったことが伺える。理解度満足度、感想などから、研修の目標は達成できたと判断する。 しかし、1 名から「パワーポイントの画面では色や文字がぼやけて、資料の文字も小さくて見えないものがあった。せっかくの資料なのでもう少し文字が大きいと助かります」という意見があった。														

研修名	高齢者の食べるを支える 摂食嚥下リハビリテーションの実際			開催日	2024 年 10 月 4 日
講 師	松本恵美(井上病院)			企 画	教育委員会
目 標	患者の QOL 向上に向けた摂食嚥下リハビリテーションの方法を理解する。				
受講者 概 要	応募者:41 人		受講者:39 人	アンケート回答者数：37 人	回答率：94.9%
	職種		保健師： 0 人、助産師:0 人、看護師:34 人、准看護師:2 人、その他：1 人		
	臨床経験年数		3 年未満:5 人、3～5 年：4 人、6～10 年：5 人、11～20 年：11 人、21 年以上：12 人		
研 修 内 容	研修は講義形式で行われた。研修内容は、摂食嚥下のメカニズムと機能評価、口腔内の評価、口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーションの実際、食環境とポジショニング、嚥下訓練の方法(演習)であった。舌でつぶせてとけるなめらかすてらの紹介、試食や口腔ケア商品の紹介なども行われた。				
評 価	アンケート回答者数 37 名のうち、「理解度」は「できた」が 67.6%「おおむねできた」が 32.4%であった。「満足度」は「できた」75.7%「おおむねできた」24.3%であった。今後実践したいことについては「限られた時間での口腔ケアだが、改めて重要性を認識できた」「食事のポジショニングや口腔ケアを職場で共有したい」「口腔ケア、ポジショニング、食事介助の基本を再認識でき、また新たな知識を得ることができたので現場で実践していきたい」などであった。 本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」が 40.0%と最も多く、本研修の感想や意見でも、「途中演習もあり楽しく講義を受けることができた」「今回の学びで今まで自信がなかったこと、あやふやだったことの答えがわかり講義内容はすべて業務に活かせる。本当に素晴らしい内容で、わかりやすかった。」「分かりやすくじっくり講義していただき勉強になった。忘れていた内容もあったので思い出し気付けたところもあった。参加してよかった。」など、高評価の感想の記載が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	消化器に強くなる！ 消化器領域の検査データの見方・活かし方			開催日	2024 年 10 月 5 日
講 師	奥平定之（奥平外科医院）			企 画	教育委員会
目 標	消化器疾患に関する検査データの見方・活かし方の基礎知識を習得する。				
受講者 概 要	応募者:53 人		受講者:51 人	④対面:12 名	⑤Zoom によるオンライン:39 名
	アンケート回答者数：45 人（対面 12、オンライン 39） 回答率:88%				
	職種		保健師:0 人、助産師:2 人、看護師:24 人、准看護師:0 人、その他：0 人		
	臨床経験年数		3 年未満:2 人、3～5 年：3 人、6～10 年：5 人、11～20 年:7 人、21 年以上：9 人		
研 修 内 容	研修は、ハイブリットで、講義形式で行われた。研修内容は、消化器の構造、検査、消化器疾患の症状・治療、検査についての内容だった。検査画像を豊富に使用され、検査データと病態の関連をわかりやすく説明された。				
評 価	アンケート回答者数 45 名のうち、「理解度」「満足度」では「できた」「おおむねできた」が 90%を超えていた。 講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは「画像もありとても分かりやすく、実際の場面と比べることが出来、とても学ぶことが多くあった」「状態に合わせた検査や治療指示がでると思われるため、なぜそれが必要なのか理解し、状況に応じた対応が取れるようにしていきたい」などの意見があった。 本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」が最も多く、「解剖や疾患に対する症状、治療方針などわかりやすかったです」「消化器について解剖、疾患から症状まで学ぶことができ、とてもわかりやすい研修でした」等の肯定的な意見が多かった。本研修の目標は達成できたと判断する。 また、「遠方のため、オンラインで参加できること、土曜日開催で勤務を休むことなく参加でき、大変ありがたかった」という意見があり、ハイブリット研修が好評であった。				

研修名	急性期で起こりやすい対応が難しい場面での家族ケア			開催日	2024 年 10 月 10 日
講 師	久間朝子(福岡大学病院)			企 画	教育委員会
目 標	急性期の危機的状況に置かれた患者家族の心理状態と、家族の状況に合わせた具体的な対応を理解する。				
受講者概要					
	応募者:29 人	受講者:29 人	アンケート回答者数: 26 人	回答率: 87.5%	
	職種	保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:26 人、准看護師:0 人、その他: 0 人			
	臨床経験年数	3 年未満:0 人、3~5 年: 3 人、6~10 年: 3 人、11~20 年: 10 人、21 年以上: 10 人			
研 修 内 容	家族をケアする意味や、意思決定支援についての講義であった。午前中は講義形式で、午後からは家族への介入が難しい場面を経験した中でどう介入し、その中でよかった点などを各グループで話し合い、模造紙に書いて全グループ発表した。				
評 価	アンケートの結果は『理解度』は、「できた・おおむねできた」が 96.2%「どちらともいえない」が 3.8%、『満足度』は「できた・おおむねできた」が 100%であった。 今後実践できること・したいことでは、「家族へのかかわり方、入院データベースの家族構成欄の記載に力を入れたい」「意思決定支援について家族と患者が話せる機会を設けていきたい」などの意見が聞かれた。 感想・ご意見では「モヤモヤの解消になった」「家族との接し方に十分役立てると思った」「グループワークを行うことで新たな意見を得ることができてよかった」などの意見が聞かれた。 「グループ発表が最後までできず不完全燃焼だった」との意見があったが、グループワーク時に発表時間と発表数を決められており、最後の発表グループがその発表時間を大幅に過ぎて、数も多く発表しようとしていたもので、講師が止めた形であった。「研修自体はとても意義のある研修であった」と言われていることから特に問題はなかったと考える。高評価の感想の記載が多く、理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	地域包括ケア時代の看護職の役割 ～退院支援への取り組み～			開催日	2024 年 10 月 11 日
講 師	土井晴代（福岡東医療センター）			企 画	教育委員会
目 標	多職種・地域との連携を図り、円滑な退院調整、退院支援が行える必要な知識と役割を修得する。				
受講者 概 要	応募者:64 人		受講者:61 人	アンケート回答者数：56 人	回答率：91.8%
	職種	保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:55 人、准看護師:1 人、その他：0 人			
	臨床経験年数	3 年未満:2 人、3～5 年：4 人、6～10 年：8 人、11～20 年:22 人、21 年以上：20 人			
研 修 内 容	研修内容は、地域包括ケア時代の看護職の役割についての講義形式で行われた。				
評 価	アンケート回答者の 83.9%（47 名）は受講動機が興味・関心があったとされている。講義内容について「理解度」は「できた・おおむねできた」67.9%「満足度」では、「できた」が 80.4%であった。 講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「受け持ち患者、家族と良い関係を築けるよう、日頃から話をしにいきたいと思いました。資料も、今後の情報収集ツールとして活用したいです」「看護師 12 年目になりますが恥ずかしながら退院支援のことは今までよくわかっていませんでした。患者さんに一番近くにいる、代弁者としての自覚をもち真のニーズがキャッチできるように関わって行きたいと思います。また地域の資源の一員であることを自覚して職務に当たりたいと思います」などの記載があった。 本研修での学びでは、「知識の整理ができた」と 48 名、半数以上の受講者が回答しているため、研修の目標は達成できたと判断する。また、次年度も土井先生の講義を受けたいという意見があった。				

研修名	循環器に強くなる！慢性心不全患者の看護			開催日	2024 年 10 月 25 日
講 師	山本かおり（光晴会病院）			企 画	教育委員会
目 標	慢性心不全の基礎的知識を修得し、療養支援の実際を知る。				
受講者 概 要					
	応募者:37 人	受講者:36 人	アンケート回答者数：36 人		回答率：100%
	職種	保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:35 人、准看護師:1 人、その他：0 人			
	臨床経験年数	3 年未満:6 人、3～5 年：6 人、6～10 年：9 人、11～20 年:8 人、21 年以上：7 人			
研 修 内 容	集合研修で実施し講義形式で行われ、午後はグループワークも実施した。研修内容は心不全の基礎(原因・メカニズム・症状・治療・検査)、病期におけるケアのポイント、慢性心不全患者の療養支援の実際であった。				
評 価	アンケート回答者数 36 名のうち、「理解度」は「できた」「おおむねできた」が 100%で、「満足度」も「できた」「おおむねできた」が 97.2%を占めていた。 今後実践したいことについては「症状と病態を結び付けて臨床で考えて知識を確認していきたい」「患者指導に役に立てたい」「心不全の患者の状態を理解して、多職種で退院調整を行いたい」などがあった。本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」が 39.8%と最も多く、感想・ご意見でも「今後の看護に活かしたいと思います」「循環器に関しては少し抵抗がありました」が、今回の研修を機に学んでいきたいと思います」などの意見があった。 高評価の感想記載内容が多く、理解度・満足度も含めて評価が高かったことから、本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	循環器に強くなる！ 循環器領域の検査データの見方・活かし方①[心電図編]			開催日	2024 年 11 月 13 日	
講 師	櫻川 浩一郎（櫻川循環器内科クリニック）			企 画	教育委員会	
目 標	循環器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を修得する。					
受講者 概 要	応募者:74 人	受講者:72 人	④対面:29 人	⑤Zoom によるオンライン:43 人		
		アンケート回答者数：68 人		回答率:94. 4%		
	職種	保健師:0 人、助産師:1 人、看護師:63 人、准看護師:4 人、その他：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満:16 人、3～5 年：16 人、6～10 年：12 人、11～20 年：19 人、21 年以上：5 人				
研 修 内 容	研修は、ハイブリット研修で講義形式で行われた。心電図の基礎知識、心電図の見方(正常・異常波形)、波形から考えられる看護についての内容であった。					
評 価	アンケート回答者数 68 名のうち、「理解度」について「できた」「おおむねできた」と 95%が回答し、「満足度」についても「できた」「おおむねできた」と 95%が回答していた。今後実践したいことについては「モニター心電図を見る時に心臓の動きを考えながら心電図波形をみていきたい。主治医報告の判断やカルテ記載に生かしていきたい」「波形のみを覚えるのではなく、波形で何がおこっているか、きちんと判断しアセスメントしなければならないと思いました」があった。本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」が 48.4%と最も多く、次いで「アイデアが得られた」が 16.1%であった。感想や意見では、「今まで心電図は苦手意識がありましたが、心臓の病態をイメージしながら読み取っていくことの大切さを学びました」「外来でよく心電図をとるので実践で生かせそうです」など、高評価の感想が多数あり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。					

研修名	クレームを起こさないための基本の対応とコツ			開催日	2024 年 11 月 14 日
講 師	山口育子（NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML）			企 画	教育委員会
目 標	医療現場で起きているトラブルに関する最近の動向を知り、クレームに向き合う姿勢と対処方法を理解する。				
受講者概要					
	応募者:30 人	受講者:27 人	アンケート回答者数：24 人	回答率：88.9%	
	職種	保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:22 人、准看護師:1 人、その他：1 人			
	臨床経験年数	3 年未満:1 人、3～5 年：3 人、6～10 年：3 人、11～20 年: 4 人、21 年以上：13 人			
研 修 内 容	研修は、講義形式で行われ、講師が所属する COML の活動（患者や患者家族からのクレーム相談、病院探検隊の活動など）、講師の経験から、患者の心理状態、患者が求めていることなどの内容であった。後半には患者、医療従事者、観察者に分かれて、クレームが起きる場面のロールプレイを行った。				
評 価	アンケート回答者数 24 名のうち、「理解度」は「できた」が 91.7%「おおむねできた」が 8.3%であった。「満足度」は「できた」が 100%であった。今後実践したいことについては、「ゆっくり時間をかけて患者様と話をしていく努力をしていきたい」「患者様とのコミュニケーションを大事にしたい」「医療者として当たり前と思っていた事と、患者の視点からの思いのズレがある事を認識しました。研修で学んだことを持ち帰り、スタッフに伝達し、取り入れることで、日々の業務に活かしたいと感じました」などがあつた。 本研修を通しての学びでは、「知識の整理が出来た」が 24.6%と最も多く、次いで「アイデアが得られた」が 18.8%であった。本研修の感想や意見では、「素晴らしい研修でした。がん治療に携わる認定看護師が、今一番学びたい内容です。」「講師の思いが、ひしひしと伝わって、思わず感情移入する場面もあつた」など、高評価の意見が多くあり、受講者の満足度は高かつたことが伺える。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	がん患者の自分らしい生活を支えるために② ～がん化学療法～			開催日	2024 年 11 月 15 日
講 師	長池恵美（長崎大学病院）			企 画	教育委員会
目 標	がん化学療法を受ける患者を理解し、副作用対策とチーム医療における看護師の役割が理解できる。				
受講者概要	応募者:24 人		受講者:24 人	アンケート回答者数：23 人	回答率：95.8%
	職種		保健師:0 人、助産師:1 人、看護師:22 人、准看護師:0 人、その他：0 人		
	臨床経験年数		3 年未満:4 人、3～5 年：3 人、6～10 年：6 人、11～20 年：5 人、21 年以上：5 人		
研 修 内 容	研修は講義形式で行われた。研修内容は、最新の動向、化学療法を受ける患者の看護、症状マネジメント、副作用対策、チーム医療と看護師の役割であった。				
評 価	アンケート回答者数 23 名のうち、「理解度」は、「できた」39.1%「おおむねできた」56.5%であった。「満足度」は、「できた」47.8%「おおむねできた」47.8%であった。今後実践したいことについては、「化学療法後の生活についての指導内容」「副作用について知らないこと・気をつけたい点が明確になり、患者・家族の関わりの際に生かしていきたい」「化学療法副作用のチェックポイントがわかった」などの意見があった。 本研修を通しての学びでは、「知識の整理ができた」が 40.8%と最も多く、次いで「思考が明確になった」16.3%であった。本研修の感想や意見では、「外来で化学療法を担うことになり、自学で行うには不安がありましたが、今回参加できて自信もつきました」「化学療法を受ける患者への指導方法や関わり方が明確になった」「今後、化学療法に関わる場合のために参加しました。まだまだ知識不足を感じ、自己研鑽を継続したいと思いました」など、高評価の感想が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	がん患者の自分らしい生活を支えるために③ ～がん性疼痛～			開催日	2024 年 11 月 28 日
講 師	鎌田 茜（諫早総合病院）			企 画	教育委員会
目 標	がん性疼痛を理解し、がん患者の疼痛緩和のケア方法を学ぶ。				
受講者 概 要	応募者:18 人		受講者:18 人	アンケート回答者数: 17 人	回答率: 94.4%
	職種		保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:16 人、准看護師:1 人、その他: 0 人		
	臨床経験年数		3 年未満:3 人、3～5 年: 1 人、6～10 年: 5 人、11～20 年: 3 人、21 年以上: 5 人		
研 修 内 容	研修は講義形式で行われた。研修内容は、がん統計、疼痛アセスメント、疼痛治療法、薬物療法、薬物療法以外の疼痛緩和方法、ACP についてであった。				
評 価	アンケート回答者数 17 名のうち、「理解度」は、「できた」76.5%「おおむねできた」23.5%であった。「満足度」は、「できた」94.1%「おおむねできた」5.9%であった。 今後実践したいことについては、「患者の痛みをしっかりと問診し、疼痛緩和に多職種と関わりながらコントロールしていきたい」「痛みだけでなく、色んな角度からみることの必要性がわかった」「今まで通り、みんなで話し合いながら最善を模索し、患者・家族・スタッフと協働していきたい」「痛みや苦痛を全人的にアセスメントし、がん患者さんの生活が少しでも安楽に過ごせるように援助していきたい」などの意見があった。 本研修を通しての学びでは、「知識の整理ができた」28.8%と最も多く、次いで「アイデアが得られた」「思考が明確になった」が共に 16.3%であった。本研修の感想や意見では、「とても分かりやすく、実際のがん患者さんへの対応に活かそうでした。事例もわかりやすく、自分のためになる講義でした」「がん疼痛の痛みや薬剤の種類など詳しく学べました。個別性に応じて情報をとることが大事だと感じました」など、高評価の感想が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	予兆を察知！ 脳血管障害に必要なアセスメント			開催日	2024 年 11 月 29 日	
講 師	田栗寛子（十善会病院）			企 画	教育委員会	
目 標	脳血管障害の基本知識を学び、看護に必要なアセスメントを理解する					
受講者 概 要	応募者:49 人	受講者:48 人	①対面: 19 名	②Zoom によるオンライン: 29 名		
		アンケート回答者数: 42 人（対面 16 人 オンライン 26 人） 回答率:87.5%				
	職種	保健師:0 人、助産師:2 人、看護師:40 人、准看護師:1 人、その他 : 0 人				
	臨床経験年数	3 年未満:9 人、3～5 年 : 7 人、6～10 年 : 10 人、11～20 年:10 人、21 年以上 : 6 人				
研 修 内 容	研修はハイブリッドで、講義形式で行われた。研修内容は、脳血管障害の病態生理、治療・看護、合併症予防法についての講義だった。					
評 価	アンケート回答者数 42 名のうち、「理解度」については「できた」「おおむねできた」と 88% が回答し、「満足度」についても「できた」「おおむねできた」と 95% が回答していた。 講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「体位、クッション使用の工夫を行いたい」「地域包括での患者さんのアセスメントに役立てたい。離床や状態変化も含めて、それを退院支援につなげていきたい」「脳卒中患者への生活指導を実際の現場でも実践していきたい」「入院時の患者のアセスメントに活かしていきたい」「病態や看護についてとても勉強になりました。今回の講義を復習し、知識習得の向上を目指したいと思います」などの記載があった。 本研修を通しての学びでは、「知識の整理ができた」が 39 名で最も多く、次いで「アイデアが得られた」であった。感想や意見では「脳血管障害に対し看護師としての観察点や関り方を学ぶことができた」「常に患者さんの状態をみて、アセスメントしていくことで早期発見・早期治療につながると学んだ」などの高評価の意見も多く、本研修の目標は達成できたと判断する。 オンライン研修の参加者では、「マナブル ID+苗字」の変更が出来ない人や、入退出を繰り返される人がいたため対応した。1 名はチャットでの問いかけにも返信がなかったため、参加の確認ができなかった。対面研修では電気消灯に関して配慮する必要があるという意見があった。					

研修名	感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策			開催日	2024 年 12 月 10 日
講 師	忽那賢志（大阪大学大学院） 太田悦子（大阪大学医学部付属病院）			企 画	教育委員会
目 標	感染に対する最新の動向と感染予防対策を理解する。				
受講者 概 要	応募者:43 人	受講者:37 人	④対面:15 名	⑤Zoom によるオンライン:22 名	
	アンケート回答者数：34 人			回答率:91.8	
	職種	保健師:0 人、助産師:1 人、看護師:33 人、准看護師:0 人、その他：0 人			
	臨床経験年数	3 年未満:4 人、3～5 年：1 人、6～10 年：4 人、11～20 年:10 人、21 年以上：15 人			
研 修 内 容	ハイブリッド研修で実施し、講義形式で行われた。研修内容は新興再興感染症と COVID-19 のこれまでとこれから、感染予防対策の基本、標準予防策、経路別感染対策、多剤耐性菌対策、医療関連感染サーベイランスによる防止技術の改善などであった。				
評 価	アンケート回答者数 34 名のうち、「理解度」は「できた」「おおむねできた」が 97%であった。「満足度」は「できた」「おおむねできた」が 97%であった。今後実践したいことについては、「感染制御リンクナースをしているが、手指消毒液の使用量が増えず悩んでいた。講義で取り組み方のヒントが得られたので、頑張って実践したい」「施設内で今回の学びを共有し、感染防止対策に役立てたい」などの意見があった。 本研修を通しての学びでは、「知識の整理ができた」が 85.2%と最も多く、「思考が明確になった」が 29.4%であった。本研修の感想や意見では、「感染症について非常に勉強になった」「気になっていたレプリコンワクチンについても機序などをの説明があり、ワクチンの重要性を理解できた」など、高評価の感想が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成したと判断する。 途中、講師側に音声トラブルがあり講義が中断し、講師と電話で連絡をとり問題が解消した。今後も講師との事前調整が必要である。				

研修名	終末期における意思決定支援			開催日	2024 年 12 月 11 日	
講 師	古田美津子（出島病院） 岩永 亜紀（出島病院）			企 画	教育委員会	
目 標	終末期における患者、家族の意思決定を支える看護師の役割を理解する					
受講者 概 要	応募者 59 人	受講者:56 人	アンケート回答者数：52 人	回答率:92.9%		
	職種	保健師:0 人、助産師:1 人、看護師:50 人、准看護師:1 人、その他：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満:2 人、3～5 年：3 人、6～10 年：8 人、11～20 年:17 人、21 年以上：22 人				
研 修 内 容	研修は講義式で行われ最後にグループワークで事例検討を 1 例行った。講義内容は意思決定支援の必要性、ACP の位置づけ、医療倫理、輸液・鎮静についてであった。					
評 価	アンケート回答者 52 名のうち理解度は「できた」が 34 名（65.4%）「おおむねできた」が 18 名（34.6%）。満足度は「できた」が 33 名（63.5%）「おおむねできた」18 名（34.6%）「どちらともいえない」1 名（1.9%）であった。今後実践したいことは「入院時の情報収集時に気持ちを大事に取っていききたい」「多職種と情報交換をしながら本人家族の納得につなげたい」「予後予測やジョンセンの 4 分割などを評価に使用してみたい」「対話の不足を実感した。ベッドサイドで気持ちを汲み取れるように話を聞きたい」などの意見があった。 感想・意見としては「意思決定支援について改めて再認識できた」「支援方法・多職種との連携、参考になった」「ACP や意思決定支援への苦手意識が和らいだ」「本人・家族の意向をしっかり確認し、方向性を担当者全員で何度も確認することの大切さを学んだ」など高評価の感想が多くあったが「緩和ケアについての研修で自分の意図した研修ではなかった。ACP についてのやり方やかわり方を知りたかった」と ACP の研修を受講したかったと意見をかかれた方が数名いたため、今後、研修名・目標等を検討する必要がある。理解度、満足度より本研修の目標は達成できたと判断する。					

研修名	実践に活かす！ 糖尿病の最新知識とセルフケア支援			開催日	2024 年 12 月 15 日
講 師	明島淳也（あけしま内科糖尿病クリニック） 平野晃彦（わたのべ内科医院）			企 画	教育委員会
目 標	糖尿病および治療に関する最新知識を修得し、生活習慣に合わせた患者ケアや療養指導を理解する。				
受講者 概 要					
	応募者:24 人	受講者:23 人	アンケート回答者数:22 名	回答率:95.7%	
	職種	保健師:0 人、助産師:1 人、看護師:20 人、准看護師:1 人、その他 : 0 人			
	臨床経験年数	3 年未満:6 人、3～5 年 : 3 人、6～10 年 : 2 人、11～20 年:3 人、21 年以上 : 8 人			
研 修 内 容	集合研修で実施し、午前・午後共に講義形式で行われた。 午前中の内容は、Q&A でよくある内容、血糖値、病態、原因、治療などを写真や動画も使用され、わかりやすく説明された。また、リブレの実演もあり、取り付け方や利用方法の説明もあった。午後からは、セルフケア、糖尿病の治療、事例を通してセルフケアを考える、その人を支えるセルフケア支援について説明された。				
評 価	アンケート回答者の 80%は、受講動機で「興味・関心があった」と回答している。講義内容について「理解度」は「できた・おおむねできた」100%、「満足度」では「できた・おおむねできた」が 100%であった。講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「スタッフの指導と患者支援を実践できます」「患者支援に役立てたい」「リブレを使う方が在宅でも居られるので、今後増えていく可能性もあり、とても勉強になりました」意見では「わかりやすかった」「新しい情報をたくさん得られて、とても勉強になりました。在宅では新しい治療や薬に疎くなるので、助かります」などの記載があった。 本研修での学びでは、「知識の整理ができた」38.8%、「アイデアが得られた」18.4%、「充実感が得られた」12.2%等の意見があり、研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	循環器に強くなる！ 循環器領域の検査データの見方・活かし方②【画像診断編】			開催日	2025 年 1 月 15 日
講 師	櫻川浩一郎（櫻川循環器内科クリニック）			企 画	教育委員会
目 標	循環器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を修得する。				
受講者 概 要					
	応募者:55 人	受講者:53 人	④対面: 29 名	⑤Zoom によるオンライン: 24 名	
		アンケート回答者数: 47 人		回答率: 88.6%	
	職種	保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:44 人、准看護師:3 人、その他:0 人			
臨床経験年数	3 年未満:9 人、3～5 年:11 人、6～10 年:6 人、11～20 年:11 人、21 年以上:10 人				
研 修 内 容	研修はハイブリッドによる講義形式で行われた。研修内容は循環器領域における画像診断、循環器疾患の診断・治療、循環器疾患患者の看護に必要な知識であった。				
評 価	アンケート回答者数 47 名のうち、「理解度」は「できた」「おおむねできた」95.7%、「満足度」に関しても「できた」「おおむねできた」が 95.7%を占めていた。今後実践できることについては「画像の見方や検査データの見方など学ぶことができました」「看護師として症状の観察や援助、Dr への報告に繋げいきたい」などの意見があった。本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」45.5%、「自己のニーズが満たされた」が 14.8%であった。感想では「チーム医療の大切さを再実感できた」「感染症が流行っている中での WEB 研修だったので助かりました」などほとんどが肯定的な意見があがったが、「部屋を暗くしてほしかった」との意見が 1 名あり当日は血管造影の細かい画像の動画があり、その時だけでもさらに暗くするなど環境配慮が必要かと思われた。 オンライン研修に関してはトラブル発生「有」と回答した受講者は 1 名いたが、「事前に資料を郵送してほしい。」と要望があるだけであった。実際にオンライン上でのトラブルはなく実施できた。理解度、満足度、研修の感想から本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	地域包括ケアシステムを知って看護の現場に活かそう学ぼう！			開催日	2024 年 9 月 12 日	
講 師	日野出悦子（長崎県看護協会会長） 松尾 純子（長崎県福祉保健部長寿社会課）			企 画	教育委員会	
目 標	地域包括システムの構築・推進に対応するための看護職の役割を理解する。					
受講者概要	応募者:62 人	受講者:62 人	④対面: 23 名	⑤Zoom によるオンライン: 39 名		
		アンケート回答者数: 59 人		回答率:95.2%		
	職種	保健師:0 人、助産師:3 人、看護師:59 人、准看護師:0 人、その他:0 人				
	臨床経験年数	3 年未満:2 人、3～5 年:5 人、6～10 年:4 人、11～20 年:20 人、21 年以上:28 人				
研 修 内 容	ハイブリッド研修で実施し、講義形式で行われた。研修内容は社会保障の関係法規/社会保障制度・保健医療福祉制度/地域包括ケアシステム/地域連携における看護職の役割/保健医療福祉制度関連職種の理解であった。					
評 価	アンケート回答者数 59 名のうち、「理解度」「満足度」は「できた」「おおむねできた」が 91.5%を占めていた。今後実践したいことについては「退院支援に活かしたい」「地域包括ケアシステムを理解し多職種と連携を図っていきたい」などがあった。本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」が 42.2%と最も多く、感想・意見でも肯定的な意見が多かった。講義については「難しい内容だったが動画イラストも多くイメージが沸きやすかった」といった反面「具体的な事例を聞きたい」などの意見があった。他に「集合研修が増えて参加しにくくなった」「オンライン研修なら参加できる」など研修形態についての意見もあった。 オンライン研修については、問題「有」と回答した受講者が 36 名のうち 7 名あり、当日のチャットでの問い合わせは無かったが、アンケートで音声途切れていたとの意見が 3 名ほどおり、他にも zoom 接続について電話連絡された受講者もいて対応する場面があった。トラブル対応については研修開始時に全員にチャットで問いかけはしていたが、実際の異常時はこちらではわかりづらく適宜問いかけを増やすなどの対策をとる必要がある。					

研修名	中堅ナースに役立つスキル			開催日	2024年7月3日～8月2日													
講師	プログラム参照			企画	研修センター													
目的	中堅看護職員として期待される役割を自覚し、その役割を実践するために必要な知識・技術を確認・習得する。																	
目標	1) 看護実践者としてスタッフに対しモデル的役割が果たせ、看護技術の指導ができる。 2) 新人看護職員に日常生活援助技術を安全・確実・効率的に実施できるよう指導ができる。 3) 新人看護職員・実地指導者・プリセプターの支援ができる。																	
対象	経験5年以上の看護師、助産師、保健師（管理者は除く）																	
受講者概要	応募者:32人		受講者 19人	アンケート回答者数：18人		回答率： 94.7%												
	職種		保健師：0人、助産師：0人、看護師：18人															
	経験年数		3～5年:1人、6～10年:6人、11～20年:6人、21年以上:5人															
研修内容	回	日	時	内 容		講師												
	1	7/3 (水)	13:30 ～ 16:00	安全で良質な看護を提供するために① 今だから見直そう～感染対策とリーダーシップ～ ・専門的看護実践・多職種を含めた部署における感染管理能力		中村みさ 長崎 医療センター												
	2	7/4 (木)	9:30 ～ 15:30	安全で良質な看護を提供するために② ～チームで作る安全文化～ ・組織における中堅ナースの位置づけおよび役割確認 ・看護手順の意義及び作成の根拠、効果的活用法 ・リスクマネジメントの視点で看護手順をとらえる(演習)		柴原陽子 長崎北病院												
	3	7/13 (土)	13:30 ～ 16:00	中堅ナースへの期待 ・専門職とはキャリアとは・中堅看護師に求められる役割		門司真由美 福岡看護大学												
	4	7/14 (日)	9:30 ～ 15:30	中堅ナースのキャリア支援～自己の看護人生を描く～ ・中堅ナースに必要なリーダーシップ ・自己の看護の原点を振り返る ・キャリアデザインとは ・今後の自己のキャリア発達を実現するために（演習）														
	5	8/1 (木)	9:30 ～ 15:30	中堅ナースだからできる人材育成 ・「新人看護職員研修ガイドライン」の考え方 ・新人看護職員研修における各担当者の役割 ・院内教育計画と新人看護職員研修体制 ・新人看護職員の特徴と支援体制 ・新人を育てる風土づくり ・新人看護師・実地指導者、プリセプターの支援の実際		江藤節代 NPO 法人 日本看護キャリア開発センター												
	6	8/2 (金)	9:30 ～ 15:30	人材育成に活かすコーチングスキル ・コーチングの概要、構造、コーチングスキル ・コーチングスキルの実際（演習） ・人材育成に役立つコーチング														
	評価	プログラム6日間はすべて集合研修で実施した。看護実践の重要な存在である中堅看護師として、根拠をもった看護をおこなっていくために実践に役立つ知識と技術の習得を目指した。回答者18名のうち、「理解度」「満足度」「活用度」全てで、「できる・おおむねできる」が9割を超えていた。研修全体の学び・感想では「新人看護師が主体性を持って学習できるように支援していきたい」「コーチングスキルを活用し、今後も新人指導や中堅看護師としての役割を果たしていきたいです」などの意見が多く、目標は達成できたと判断する。 できる おおむねできる どちらともいえない <table><tr><td>理解度</td><td>67%</td><td>30%</td><td>1%</td></tr><tr><td>満足度</td><td>70%</td><td>27%</td><td>1%</td></tr><tr><td>活用度</td><td>63%</td><td>34%</td><td>1%</td></tr></table>						理解度	67%	30%	1%	満足度	70%	27%	1%	活用度	63%	34%
理解度	67%	30%	1%															
満足度	70%	27%	1%															
活用度	63%	34%	1%															

研修名	スタッフ指導における「気になる」を解決！ 個性を活かす関りと支援しやすい職場作り		開催日	2024 年 11 月 17 日
講 師	角田直枝（常磐大学）		企 画	教育委員会
目 標	「気になる」スタッフの判断と効果的で具体的な指導方法を理解する。			
受講者 概 要				
	応募者:42 人	受講者:41 人	アンケート回答者数：41 人	回答率：100%
	職種	保健師:1 人、助産師:0 人、看護師:40 人、准看護師:0 人、その他：0 人		
	臨床経験年数	3 年未満:0 人、3～5 年：3 人、6～10 年：5 人、11～20 年：10 人、21 年以上：23 人		
研 修 内 容	研修は講義形式で行われた。研修内容は「気になる」看護師の把握と理解、円滑な業務遂行のための支援、業務における問題への対応、対人関係スキル、「気になる」スタッフへの効果的な関り・具体的な指導法であった。			
評 価	アンケート回答者数 41 名のうち、「理解度」は「できた」が 61%、「おおむねできた」が 34.1%、「満足度」は「できた」が 61%、「おおむねできた」が 31.7%であった。今後実践したいことについては、「気になる人を分析する、理解することから始めたいと思います」「気になるスタッフの情報収集を行い、PDCA サイクルを回しサービスの質の向上に努めます」「学習者に対して、まわりがどう関わっていくか、自分自身だけでなく病棟全体で実践できるよう伝達していきたいです」などの意見があった。 本研修を通しての学びでは、「知識の整理ができた」が 23.6%と最も多く、次いで「アイデアが得られた」が 17.1%であった。本研修の感想や意見では、「いろいろな経験をふまえて頂き、楽しい講義でした」「とても勉強になり、面白かったです。研修を受けることができて良かったです。あっという間に終わってしまった感じです」「私もきっと誰かの「気になる人」だと思うので、お互い様の気持ちと思いやりを忘れずにいきたと思いました」など、高評価の感想が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成したと判断する。			

研修名	コーチングを活かす OJT の際の指導力、 研修の設計力を高めよう			開催日	2024 年 10 月 19、20 日
講 師	杉浦真由美(北海道大学)			企 画	教育委員会
目 標	教える技術、教え上手の育て方の技術を深め、教育計画作成のポイントを理解する。				
受講者 概 要	応募者:19 人		受講者:18 人	アンケート回答者数: 17 人	回答率: 94.4%
	職種		保健師:2 人、助産師:0 人、看護師:15 人、准看護師:0 人、その他: 0 人		
	臨床経験年数		3 年未満:0 人、3~5 年: 0 人、6~10 年: 4 人、11~20 年: 8 人、21 年以上: 5 人		
研 修 内 容	1.5 日の集合研修で、グループワークの座席で行われ、いろいろな事例についてワークをしながら進められた。「教え方」「伝え方」について、けん玉の仕方を教えるために「学習目標」「手順」「評価」をグループで考え発表した。				
評 価	アンケート回答者数 17 名のうち、「理解度」は「できた」が 58.8%、「おおむねできた」が 41.2%であった。「満足度」は「できた」が 88.2%「おおむねできた」が 11.8%であった。理解度・満足度ともに「できた」「おおむねできた」が 100%であり、積極的に受講されている様子がみられた。今後実践できること・したいことでは「知識の整理ができた」「他の病院の方と意見交換できたので自分の病院でも反映させたい」「企画書の段階で明文化することの大切さを学んだ」「即時のフィードバックを明日から行いたい」などの意見が聞かれた。 感想・意見では「とても分かりやすかった」「指導についての悩みが解決できた」「研修企画書の改訂をするいい機会になった」「導入が面白く、飽きることなく研修を受けることができた」「講義の内容も勉強になったが、研修の進め方や受講生の興味を引くにはどうするかという事が実体験できた」などの意見が聞かれた。高評価の感想の記載が多く、理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	はじめてのリーダー ～看護職に求められるリーダーシップ～			開催日	2024 年 10 月 24 日
講 師	江藤節代 (NPO 法人日本看護キャリア開発センター)			企 画	教育委員会
目 標	リーダーシップを発揮するために必要な基本知識を学び、チームでの役割を理解する。				
受講者 概 要	応募者:42 人		受講者:41 人	アンケート回答者数:33 人	回答率:80.5%
	職種		保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:33 人、准看護師:0 人、その他:0 人		
	臨床経験年数		3 年未満:2 人、3～5 年:8 人、6～10 年:13 人、11～20 年:5 人、21 年以上:5 人		
研 修 内 容	研修は講義形式で行われた。研修内容は、リーダーシップとは、臨床におけるリーダーの役割と機能、リーダーシップとマネジメント、自己の課題についてであった。				
評 価	アンケート回答者数 33 名のうち、「理解度」は「できた」が 36.4%「おおむねできた」が 57.6%であった。「満足度」は「できた」が 42.4%「おおむねできた」が 51.5%であった。 今後実践したいことについては「自分の意見も伝えながら、チームのメンバーの意見もよく聞くことが出来るリーダーになりたいと思った」「何よりもコミュニケーションが大事だと言うことを感じた。コミュニケーションエラーはあるため、声をかけやすい雰囲気をもつこと、感謝の気持ちなども言葉にして伝えるなどの必要性を感じた」などがあった。 本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」が 31.4%と最も多く、次いで「アイデアが得られた」が 24.3%であった。本研修の感想や意見では、「充実した学びの時間でした。明日からの勤務で活かしていきたいです。」「内容の濃い研修だったと思います。できることから始めようと思います。」「リーダーに求められる能力が何かを知り、今度自分がどういう能力を伸ばしていけば良いか気づきになるような講義でした。」など、高評価の感想が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。1 名のみ、「リーダーに向いていない、荷が重いと思った。」との意見があった。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。				

研修名	はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～【第1回】	開催日	2024年12月5日 2024年12月6日												
講師	江藤 節代 (NPO 法人日本看護キャリア開発センター)	企画	教育委員会												
目標	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護教育のビジョンを明確化する。														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:63人</td><td>受講者:62人</td><td>アンケート回答者数:60人</td><td>回答率:96.8%</td></tr> <tr> <td>職種</td><td colspan="3">保健師:0人、助産師:1人、看護師:59人、准看護師:0人、その他:0人</td></tr> <tr> <td>臨床経験年数</td><td colspan="3">3年未満:10人、3～5年:25人、6～10年:15人、11～20年:6人、21年以上:4人</td></tr> </table>			応募者:63人	受講者:62人	アンケート回答者数:60人	回答率:96.8%	職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:59人、准看護師:0人、その他:0人			臨床経験年数	3年未満:10人、3～5年:25人、6～10年:15人、11～20年:6人、21年以上:4人		
応募者:63人	受講者:62人	アンケート回答者数:60人	回答率:96.8%												
職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:59人、准看護師:0人、その他:0人														
臨床経験年数	3年未満:10人、3～5年:25人、6～10年:15人、11～20年:6人、21年以上:4人														
研修内容	集合研修で実施し、グループワークを多く含んだ講義形式であった。1日目の内容は「新人看護職員臨床研修の概要」「プリセプターの役割」「教育のビジョンと教育的関わり」について、2日目の午前は「コーチングを活用した新人支援」「プリセプターとしての今後取り組みたい課題」のシナリオ作成についてグループワークを行い、発表した。														
評価	アンケート回答者数60名のうち、「理解度」について「できた」「おおむねできた」と98.4%が回答し、「満足度」についても「できた」「おおむねできた」と100%が回答した。 今後実践したいことは、「新人主体になる質問を意識して今後関わりを考えていきたい」「日々の生活でも使えることを沢山学んだためとても受講してよかった」などがあつた。本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」が28.7%と最も多く、次いで「アイデアが得られた」が26.0%であった。感想では、「新人職員への関わり方、指導、声かけが明確に記載されていてとても分かりやすかった」「去年プリセプターを担って様々なことに悩んだが、関わり方が間違っていなかったこともあつたと認識できてよかった」などがあつた。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。														

研修名	はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～【第2回】	開催日	2025年1月9日 2025年1月10日																
講師	江藤 節代 (NPO 法人日本看護キャリア開発センター)	企画	教育委員会																
目標	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護教育のビジョンを明確化する。																		
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:69人</td><td>受講者:69人</td><td>①対面:48名</td><td>②Zoomによるオンライン:21名(2日目)</td></tr> <tr> <td></td><td colspan="2">アンケート回答者数:66人</td><td>回答率:95.7%</td></tr> <tr> <td>職種</td><td colspan="3">保健師:0人、助産師:3人、看護師:63人、准看護師:0人、その他:0人</td></tr> <tr> <td>臨床経験年数</td><td colspan="3">3年未満:14人、3～5年:27人、6～10年:15人、11～20年:7人、21年以上:3人</td></tr> </table>			応募者:69人	受講者:69人	①対面:48名	②Zoomによるオンライン:21名(2日目)		アンケート回答者数:66人		回答率:95.7%	職種	保健師:0人、助産師:3人、看護師:63人、准看護師:0人、その他:0人			臨床経験年数	3年未満:14人、3～5年:27人、6～10年:15人、11～20年:7人、21年以上:3人		
応募者:69人	受講者:69人	①対面:48名	②Zoomによるオンライン:21名(2日目)																
	アンケート回答者数:66人		回答率:95.7%																
職種	保健師:0人、助産師:3人、看護師:63人、准看護師:0人、その他:0人																		
臨床経験年数	3年未満:14人、3～5年:27人、6～10年:15人、11～20年:7人、21年以上:3人																		
研修内容	本研修は、はじめてのプリセプター【第1回】の研修と同様の講師・内容で実施した。2日目は前日に積雪の予報となり、急遽ハイブリッドで実施し、9:30開始を10:00開始に変更した。講義とグループワークが中心で行われ、オンライン参加者は個人ワークとなった。午後は作成したシナリオを会場から6グループ、オンラインから2名が発表した。																		
評価	アンケート回答者数66名のうち、「理解度」は「できた」が74.2%「おおむねできた」が25.8%であった。「満足度」は「できた」が68.2%「おおむねできた」が28.8%「どちらともいえない」が3.0%であった。今後実践したいことについては「ゼロポジションで相手の話を聞く」「できていないことばかりに目を向けず、できていることを承認することで意欲的に取り組めるように促す」などとあつた。本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」が28.8%と最も多く、次いで「アイデアが得られた」が25.0%であった。本研修の感想や意見では、「今回の講義で学んだ事を活かして良い関係を築いていきたい」「自分が今後指導していく時は今回学んだコーチングを実践できるように復習し学びを深めたい」など、前向きな感想が多くあり、理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。																		

認定看護管理者教育課程

I. ファーストレベル

1. 教育目的

看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。

2. 到達目標

- 1) ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。
- 2) 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。
- 3) 看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。

3. カリキュラム

教科目	単元	教育内容	講師	時間数
ヘルスケアシステム論Ⅰ	社会保障制度概論	・社会保障制度の体系 ・社会保障の関連法規	尾形 裕也	15
	保健医療福祉サービスの提供体制	・保健医療福祉制度の体系 ・地域包括ケアシステム ・地域共生社会		
	ヘルスケアサービスにおける看護の役割	・看看連携 ・地域連携における看護職の役割 ・保健医療福祉関連職種理解	益富美津代	
		・看護の社会的責務と業務基準 看護関連法規 倫理綱領 看護業務基準	日野出悦子	
組織管理論Ⅰ	組織マネジメント概論	・組織マネジメントに関する基礎知識 ・看護管理の基礎知識	倉岡有美子	15
	看護実践における倫理	・看護実践における倫理的課題 ・倫理的意思決定への支援	永石 恵美	
人材管理Ⅰ	労務管理の基礎知識	・労働法規・就業規則 ・健康管理（メンタルヘルスを含む） ・雇用形態・勤務体制 ・ワークライフバランス ・ハラスメント防止	山内小百合	30
	看護チームのマネジメント	・チームマネジメント ・看護ケア提供方式	柏木美佐子	
		・リーダーシップとメンバーシップ ・コミュニケーション ・ファシリテーション	江藤 節代	
		・准看護師への指示と業務 ・看護補助者の活用	谷尾佐知子	
	人材育成の基礎知識	・成人学習の原理 ・役割理論 ・動機づけ理論 ・人材育成の方法	江藤 節代	
資源管理Ⅰ	経営資源と管理の基礎知識	・診療・介護報酬制度の理解 ・経営指標の理解 ・看護活動の経済的効果	岡田みずほ	15
	看護実践における情報管理	・医療・看護情報の種類と特徴 ・情報管理における倫理的課題（情報リテラシー）	宇都由美子	
質管理Ⅰ	看護サービスの質管理	・サービスの基本概念 ・看護サービスの質評価と改善	佐田 明子	15
		・看護サービスの安全管理 ・看護サービスと記録	幸 史子	
統合演習Ⅰ	演習	・学習内容を踏まえ、受講者が取り組む課題を明確にし、対応策を立案する。	演習支援者 専任教員	15

レポートの書き方3時間

看護管理実践計画発表会6時間

総時間数114時間

4. 受講要件

- 1) 日本国の看護師免許を有する者。
- 2) 看護師免許を取得後、実務経験が通算 5 年間以上ある者。
- 3) 管理業務に関心がある者。

5. 日程・応募・受講状況 (人)

	実施期間	定員	応募者	決定者	受講者	修了者
第 1 回	5 月 16 日 (木)～9 月 22 日 (日) (20 日間)	100	91	39	39	39
第 2 回	10 月 3 日 (木)～令和 6 年 1 月 26 日 (日) (20 日間)			52	52	50

6. 受講者職位 (人)

職位	部長	副部長 管理者	師長・課長	副師長・主任 師長補佐・係長	副主任	看護師	計
第 1 回	0	0	3	28	1	7	39
第 2 回	0	1	8	35	1	7	52
合計	0	1(1.1%)	11(12.1%)	63(69.2%)	2(2.2%)	14(15.4%)	91(100%)

7. 受講修了者所属施設 (人)

病床	20~99	100~199	200~299	300~399	400~499	500~599	600~699	700~799	800 以上	病床なし
1 回	4	15	5	4	1	6	0	0	3	1
2 回	5	13	10	8	1	5	4	2	3	1
合計	9(9.9%)	28(30.8%)	15(16.5%)	12(13.2%)	2(2.2%)	11(12.1%)	4(4.4%)	2(2.2%)	6(6.6%)	2(2.2%)

8. 各教科目の理解度、活用度（講義終了時の受講者評価）

「理解できた」4 点、「まあまあ理解できた」3 点、「あまり理解できない」2 点、「理解できない」1 点の平均値
「活用できる」4 点、「まあまあ活用できる」3 点、「あまり活用できない」2 点、「活用できない」1 点の平均値

教科目	単元	第1回 理解度	第1回 活用度	第2回 理解度	第2回 活用度
ヘルスケア システム論Ⅰ	社会保障制度概論・保健医療福祉サービスの提供体制	3.15	3.33	3.21	3.40
	ヘルスケアサービスにおける看護の役割	3.49	3.54	3.55	3.68
組織管理論Ⅰ	組織マネジメント概論	3.44	3.72	3.56	3.81
	看護実践における倫理	3.67	3.79	3.76	3.82
人材管理Ⅰ	労務管理の基礎知識	3.62	3.56	3.64	3.72
	看護チームのマネジメント	3.83	3.82	3.88	3.88
	人材育成の基礎知識	3.56	3.79	3.71	3.90
資源管理Ⅰ	経営資源と管理の基礎知識	3.46	3.56	3.31	3.60
	看護実践における情報管理	3.56	3.54	3.60	3.63
質管理Ⅰ	看護サービスの質管理	3.71	3.82	3.68	3.81
統合演習Ⅰ	演習	3.85	3.85	3.84	3.88

9. まとめ

2024 年度の応募者数は、募集定員 100 名中 91 名と定員割れとなった。受講決定者数第 1 回は 5 月に 39 名、第 2 回は 10 月に 52 名で開講したが、受講人数に偏りが生じた。受講者の職位別では、主任相当 63 名 (69.2%) (対前年差 5.5 ポイント増) と最も多く、次いで看護師 14 名 (15.4%)、看護師長相当 11 名 (12.1%) であった。看護師の受講者は、15.4% (対前年差 3.3 ポイント減) と減少した。受講者の病床規模別では、100～199 床 (30.8%) が最も多く、次いで 200～299 床 (16.5%) であった。授業形態は、集合形態を基本とし、ハイブリッド授業も導入している。ハイブリッド授業は、第 1 回 8 日 (40%)、第 2 回 2 日 (10%) 実施して、受講者の新興感染症等における出席時間不足を回避できた。

各教科目の「理解度」「活用度」を 4 段階評価で行った。評価が高い教科目は、理解度が第 2 回人材管理Ⅰ「看護チームのマネジメント」3.88 点と最も高く、活用度が第 2 回人材管理Ⅰ「人材育成の基礎知識」3.90 点と最も高かった。日頃業務で実践している内容であり、受講生の知識の補強や、業務に活用できる知識を得る機会となっている。低い教科目は、理解度、活用度ともにヘルスケアシステム論Ⅰ「社会保障制度概論・保健医療福祉サービスの提供体制」が例年低値を推移している。受講者のアンケートには「地域医療構想という言葉と、その内容はあまり馴染みがなくほとんど知らなかった」と回答があり、実務経験の中で知識を得る機会が少なく、難しい内容と感じている。一方では「地域医療構想について学習したことで、当院における今後の方針の背景と関連付けて理解することに繋がった」と理解を深める機会となっている。全体を通して「多くの学びがありました。学んだ知識と技術を活用し看護の質をあげていくとやる気に満ち溢れています」「研修の学びが有難かったです。必ず職場で得た知識を活かしていきたいと思います」などの意見が聞かれた。今後、研修の学びを現場での看護管理過程の展開に活かして、より良い看護を提供するに繋がることを期待する。

Ⅱ. セカンドレベル

1. 教育目的

看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。

2. 到達目標

- 1) 組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。
- 2) 保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。

3. カリキュラム

教科目	単 元	教 育 内 容	講 師	時間数
ヘルスケアシステム論Ⅱ	社会保障制度の現状と課題	・日本における社会保障 人口構造、疾病構造の変化 社会保障費の（財源）構造と推移	尾形 裕也	15
	保健医療福祉サービスの現状と課題	・保健医療福祉サービスの提供内容の実際 病院、看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーション等	益富美津代	
	ヘルスケアサービスにおける多職種連携	・多職種によるチームケア提供の実際と課題	平山 香織	
組織管理論Ⅱ	組織マネジメントの実際	・組織分析	木下日出美	30
		・組織の変革	倉岡有美子	
		・組織の意思決定	坂井 和子	
	看護管理における倫理	・看護管理における倫理的課題 ・看護管理における倫理的意思決定	倉岡有美子	
人材管理Ⅱ	人事・労務管理	・人員配置 ・勤務計画 ・ワークライフバランスの推進	楠本 美和	45
		・ストレスマネジメント ・タイムマネジメント	山本 美子	
		・労働災害とその対策 ・労務管理に関する今日的課題 ・ハラスメント予防策と対応	山内小百合	
	多職種チームのマネジメント	・人的資源の活用 ・リーダーシップの実際	福嶋ひろみ	
		・コンフリクトマネジメント	岐部 千鶴	
		・看護補助者の育成	横山 藤美	
	人材を育てるマネジメント	・キャリア開発支援 ・人材育成計画	中尾 優子	
資源管理Ⅱ	経営資源と管理の実際	・医業収支 ・費用対効果 ・経営指標の活用 ・適切な療養環境の整備	岡田みずほ	15
	看護管理における情報管理	・看護の評価 ・改善のための情報活用	宇都由美子	
質管理Ⅱ	看護サービスの質保証	・クオリティマネジメント	小渕美樹子	30
		・医療・看護におけるクオリティマネジメント	大重 育美	
	安全管理	・安全管理の実際 ・法令遵守 ・安全管理教育	鮎澤 純子	
		・災害対策	西村佳奈美	
統合演習Ⅱ	演習	・自部署の組織分析に基づいた実践可能な改善計画を立案する。	演習支援者	45
	実習	・地域連携を理解するための他施設実習を行う。 (実習施設は、受講者自身の所属種別以外の施設とする)	石丸 貴敏 実習担当者 専任教員	

看護管理実践計画発表会 3 時間

総時間数 183 時間

4. 受講要件

- 1) 日本国の看護師免許を有する者。
- 2) 看護師免許取得後、実務経験が通算 5 年以上ある者。
- 3) 認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了している者。または、看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に 1 年以上就いている者。

5. 日程・応募状況・受講状況

(人)

実施期間	定員	応募者	応募者施設	決定者	受講者	修了者
6 月 27 日～12 月 8 日のうち 31 日間	35	37	20	37	37	37

6. 受講者基本情報

1) 職位

(人)

部長・総師長	副部長・次長	師長・課長・科長	主任・副師長・係長	計
1	5	20	11	37

2) 所属施設の病床数

(人)

19 床以下	20～99 床	100～199 床	200～499 床	500 床以上	病床なし	計
0	1	7	14	15	0	37

7. 各教科目の理解度・活用度（講義終了時の受講者評価）

「理解できた」4 点、「まあまあ理解できた」3 点、「あまり理解できない」2 点、「理解できない」1 点の平均値
「活用できる」4 点、「まあまあ活用できる」3 点、「あまり活用できない」2 点、「活用できない」1 点の平均値

教科目	単元	理解度	活用度
ヘルスケアシステム論Ⅱ	社会保障制度の現状と課題	3.32	3.57
	保健医療福祉サービスの現状と課題	3.84	3.81
	ヘルスケアサービスにおける多職種連携	3.76	3.81
組織管理論Ⅱ	組織マネジメントの実際	3.78	3.86
	看護管理における倫理	3.78	3.95
人材管理Ⅱ	人事・労務管理	3.86	3.87
	多職種チームのマネジメント	3.86	3.89
	人材を育てるマネジメント	3.84	3.81
資源管理Ⅱ	経営資源と管理の実際	3.86	3.81
	看護管理における情報管理	3.76	3.82
質管理Ⅱ	看護サービスの質保証	3.84	3.85
	安全管理	3.86	3.91
統合演習Ⅱ	演習	3.97	3.95
	実習（講義）	3.59	3.59

8. まとめ

受講者の職位別では、看護師長などが 20 名と最も多く、部長・副部長職では昇格に伴い受講した人も多かった。所属施設の病床数では、199 床以下では 8 名 (21.6%) と昨年より減少していた。

受講者評価では、理解度、活用度ともに高い教科目は、「人材管理Ⅱ」となっていた。受講者に身近な問題であるため、講義も共感できる部分が多くあり学びを深める機会となっていた。「組織管理論Ⅱ」の「看護管理における倫理」では、看護管理者の倫理的ジレンマについて、「質管理Ⅱ」の「安全管理」では、災害対策について学び、ともに活用度で評価が高くなっている。「統合演習Ⅱ」の演習では、自部署の組織分析のための情報収集・現状分析を丁寧に行った。看護サービス上の課題を明確にすることが難しく時間を要するが、演習支援者、グループメンバーとのディスカッションをもとに、課題の明確化につなげていった。回を重ねるごとに充実したものとなり、今後の看護管理実践計画を立案することができた。

「統合演習Ⅱ 実習」は、県内 24 施設にご協力いただき、他施設実習を実施することができた。地域連携における施設の役割も明確となり、受講者自身の実習目的も多様となっている。各自が希望する施設で具体的に学び、得たものは、今後の自施設での実践に活かすことができると考える。

今年度は 8 月に、台風接近の影響で、日程を 2 日間変更した。受講者は勤務変更や課題レポート提出期限の変更などスケジュールが過密となったが、無事に 37 名揃って修了することができた。

2024年度 40研修アンケートからみた研修評価

*研修の理解度、満足度「できる」「ややできる」は、ほとんどの研修が80%であった。

